

令和2年度 第3回
希望郷いわてモニターアンケート

ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

令和3年3月
岩手県保健福祉部地域福祉課

ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

I アンケートの趣旨

県では、「すべての人が個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。

本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

II 調査実施期間

令和2年11月25日（水）～ 同年12月9日（水）

III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

IV 調査対象

令和2、3年度希望郷いわてモニター 203名

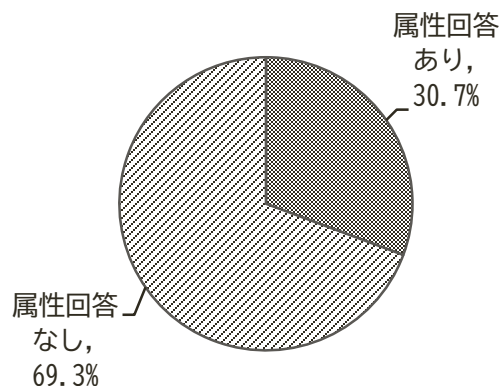
V 回答者数

176名

VI 回答率 86.7%

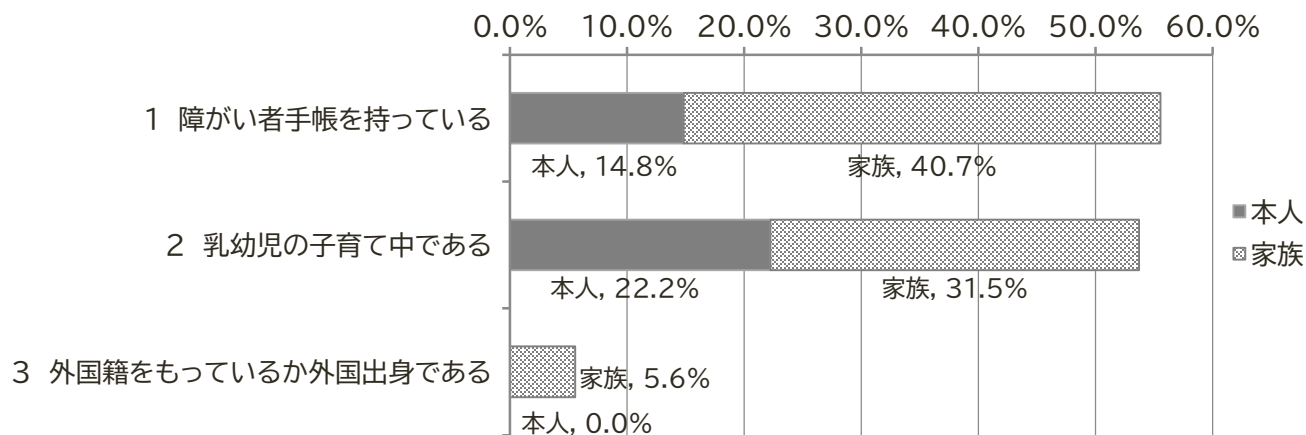
回答者の属性

	回答者数	比率
属性回答あり	54	30.7%
属性回答なし	122	69.3%
合計	176	100.0%



<属性の内訳> (重複あり)

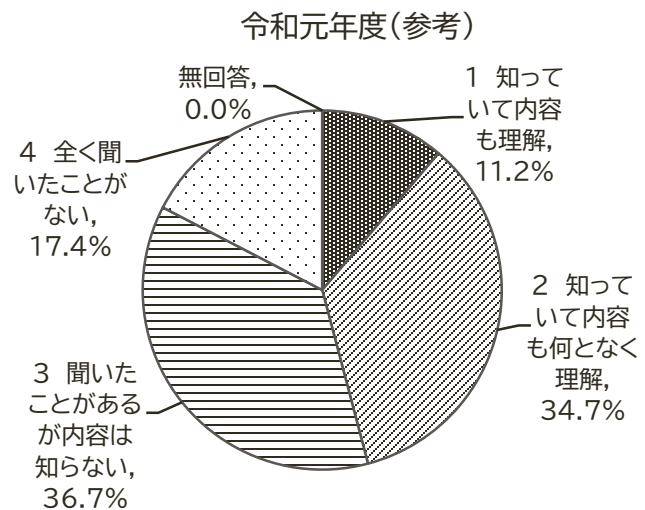
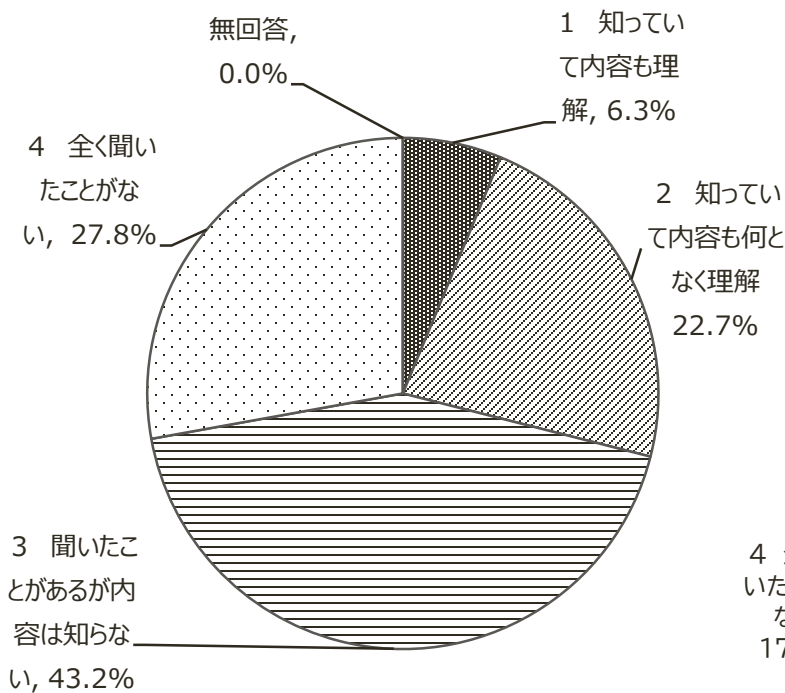
	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	8	14.8%	22	40.7%	30	55.6%
2 乳幼児の子育て中である	12	22.2%	17	31.5%	29	53.7%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	3	5.6%	3	5.6%
合計	20	37.0%	42	77.8%	—	—



問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解している	11	6.3%	22	11.2%
2 知っていて内容も何となく理解している	40	22.7%	68	34.7%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	76	43.2%	72	36.7%
4 全く聞いたことがない	49	27.8%	34	17.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	176	100.0%	196	100.0%



【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している方（「何となく理解している」も含む。）は29.0%となり、令和元年度と比較し、16.9ポイント減少した。

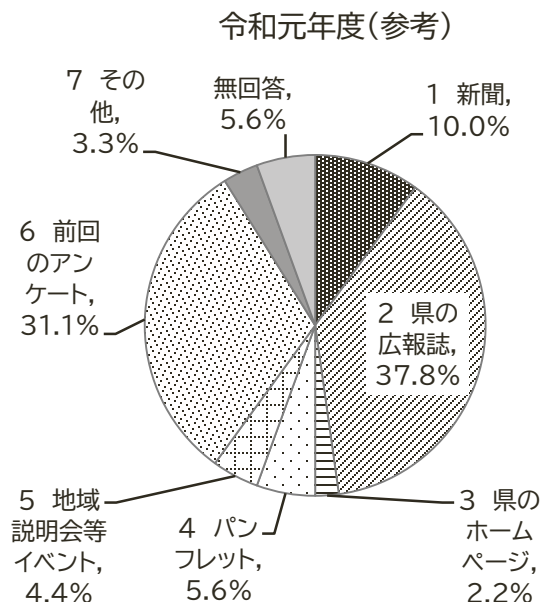
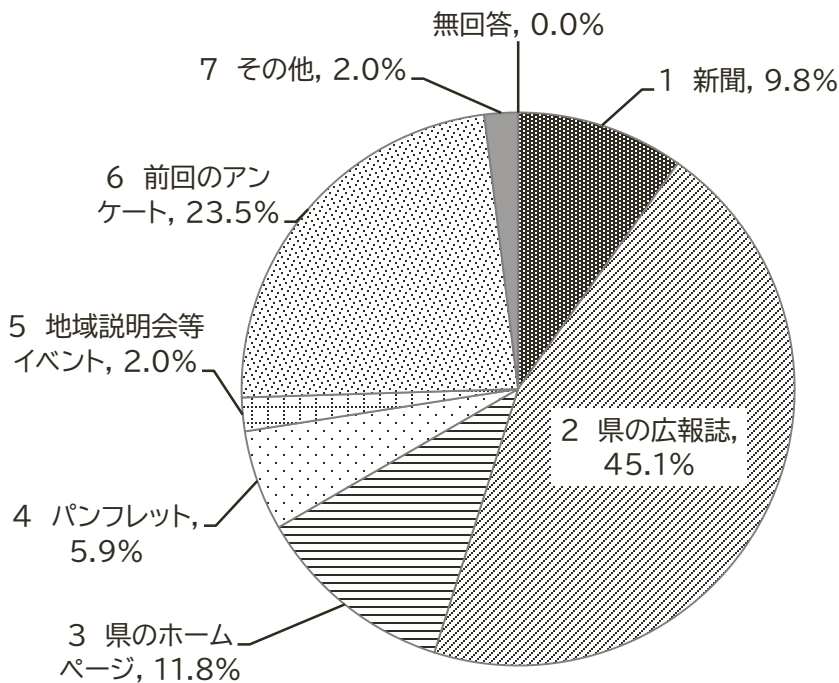
問2

問1で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	5	9.8%	9	10.0%
2 県の広報誌	23	45.1%	34	37.8%
3 県のホームページ	6	11.8%	2	2.2%
4 パンフレット	3	5.9%	5	5.6%
5 地域説明会等イベント	1	2.0%	4	4.4%
6 前回のアンケート	12	23.5%	28	31.1%
7 その他	1	2.0%	3	3.3%
無回答	0	0.0%	5	5.6%
合計	51	100.0%	90	100.0%

<7その他の主な内容>

● 仕事で(建設業)。



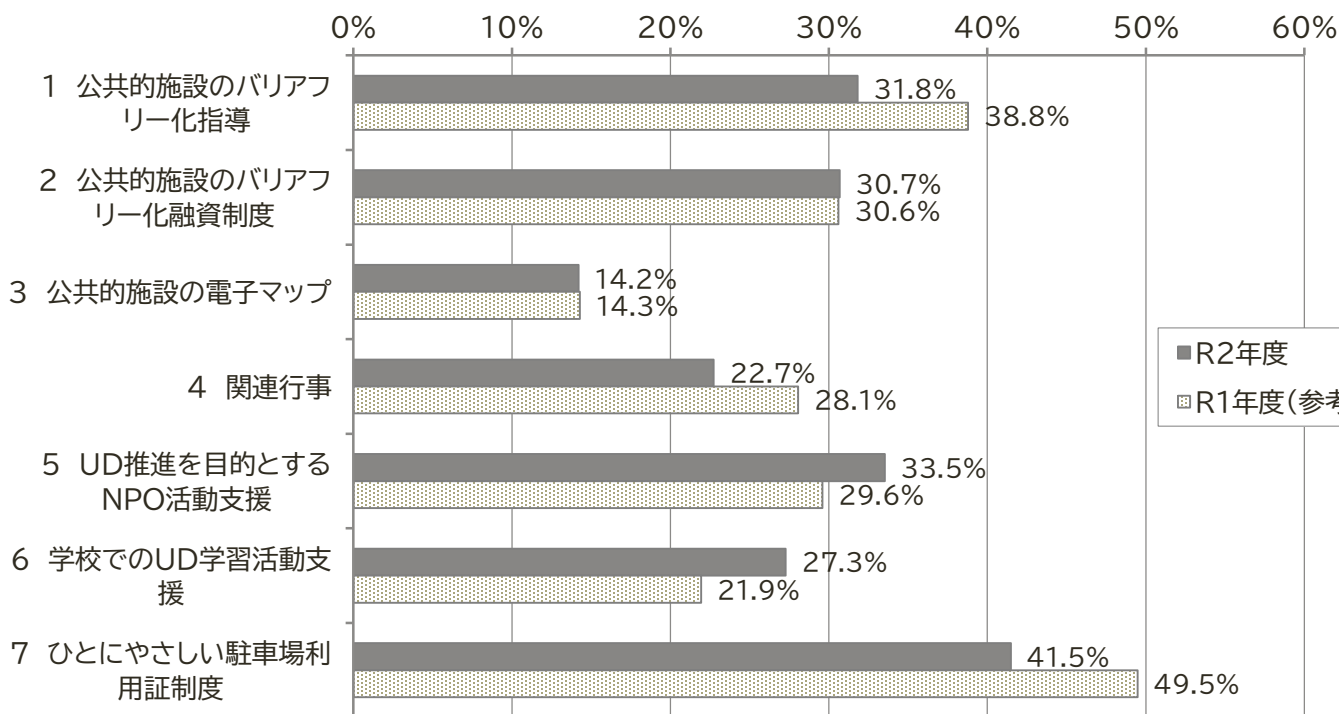
【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、県の広報誌と回答した方の割合が多く、今後も普及啓発を継続する必要がある。

問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたりしたことのあるもの、利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	56	31.8%	76	38.8%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	54	30.7%	60	30.6%
3 公共的施設の電子マップ	25	14.2%	28	14.3%
4 関連行事の開催	40	22.7%	55	28.1%
5 ユニバーサルデザイン推進を目的とするNPO活動支援	59	33.5%	58	29.6%
6 学校でのユニバーサルデザイン学習活動支援	48	27.3%	43	21.9%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度	73	41.5%	97	49.5%
(回答者実数計)	176	-	196	-



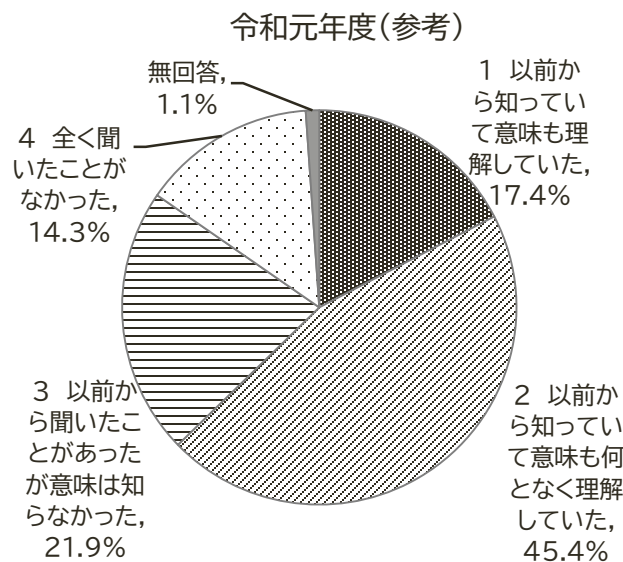
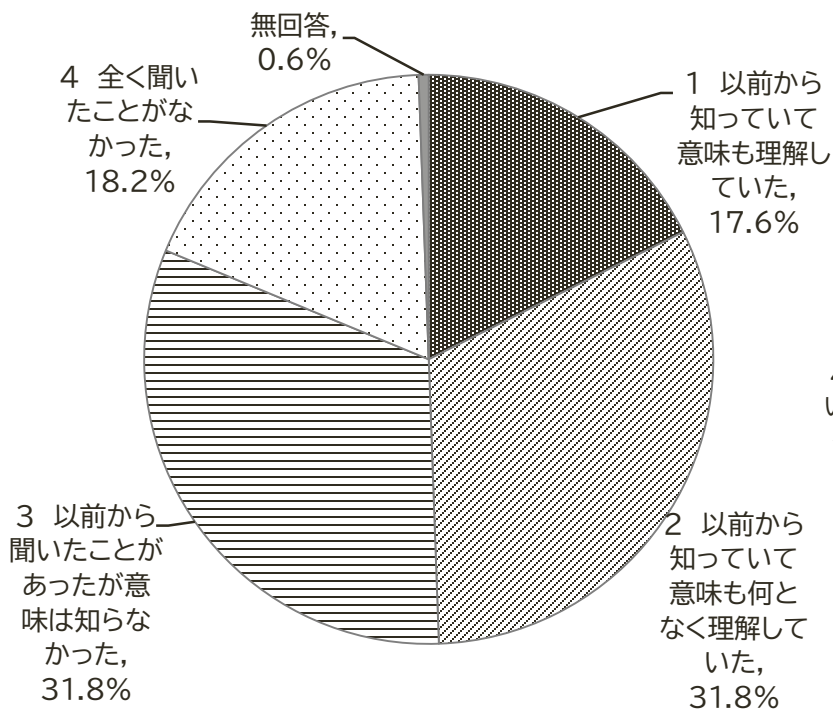
【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が41.5%と最も高く、次いで、「UD推進を目的とするNPO活動支援」が33.5%となっている。

問4

「ユニバーサルデザイン」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて意味も理解していた	31	17.6%	34	17.4%
2 以前から知っていて意味も何となく理解していた	56	31.8%	89	45.4%
3 以前から聞いたことがあったが意味は知らなかった	56	31.8%	43	21.9%
4 全く聞いたことがなかった	32	18.2%	28	14.3%
無回答	1	0.6%	2	1.1%
合計	176	100.0%	196	100.0%



【調査結果】

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていて意味も理解している方（「何となく理解」も含む。）の割合は49.4%となり、令和元年度と比較して、13.4ポイント減少した。

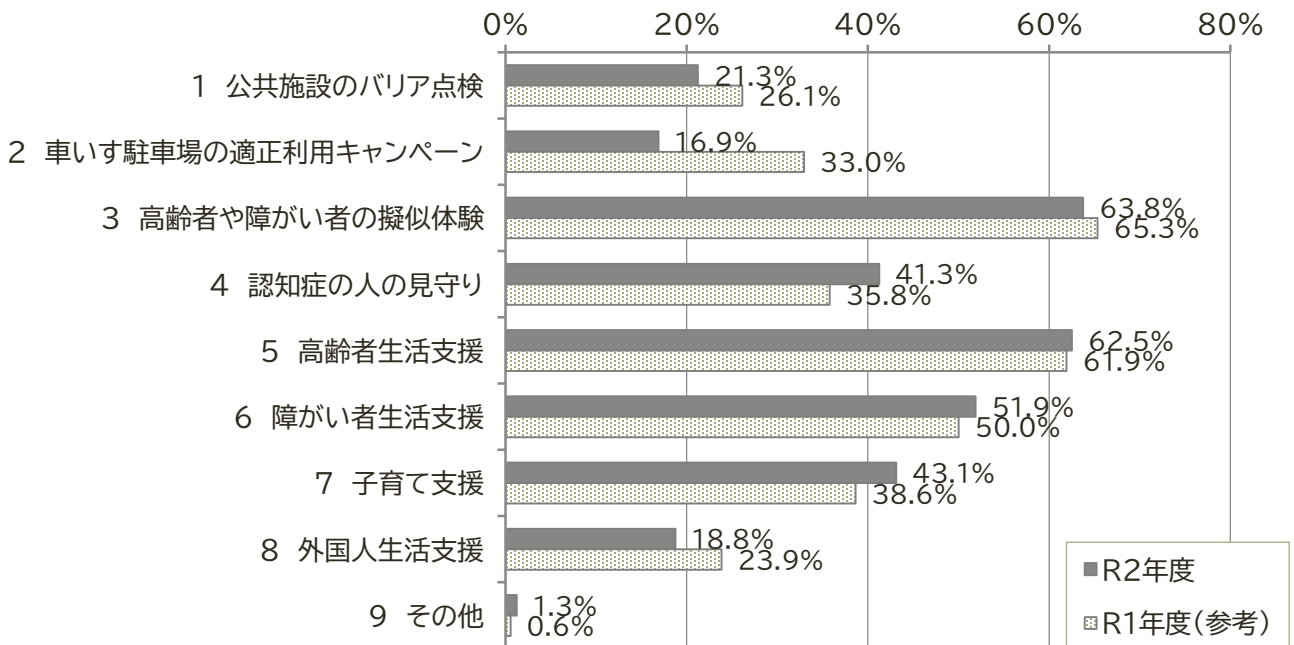
問5

以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	34	21.3%	46	26.1%
2 車椅子駐車場の適正利用キャンペーン	27	16.9%	58	33.0%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	102	63.8%	115	65.3%
4 認知症の人の見守り	66	41.3%	63	35.8%
5 高齢者生活支援	100	62.5%	109	61.9%
6 障がい者生活支援	83	51.9%	88	50.0%
7 子育て支援	69	43.1%	68	38.6%
8 外国人生活支援	30	18.8%	42	23.9%
9 その他	2	1.3%	1	0.6%
(回答者実数計)	160	-	176	-

<9その他の内容>

- 障がい者(一人暮らし)のゴミ出し手伝いを続けている(10年以上)。買物のサポート等。
- スーパーで開催されているスローショッピングのサポーターとして参加活動している。



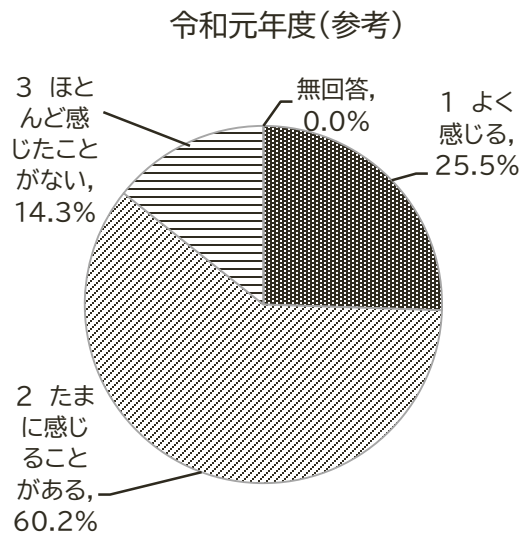
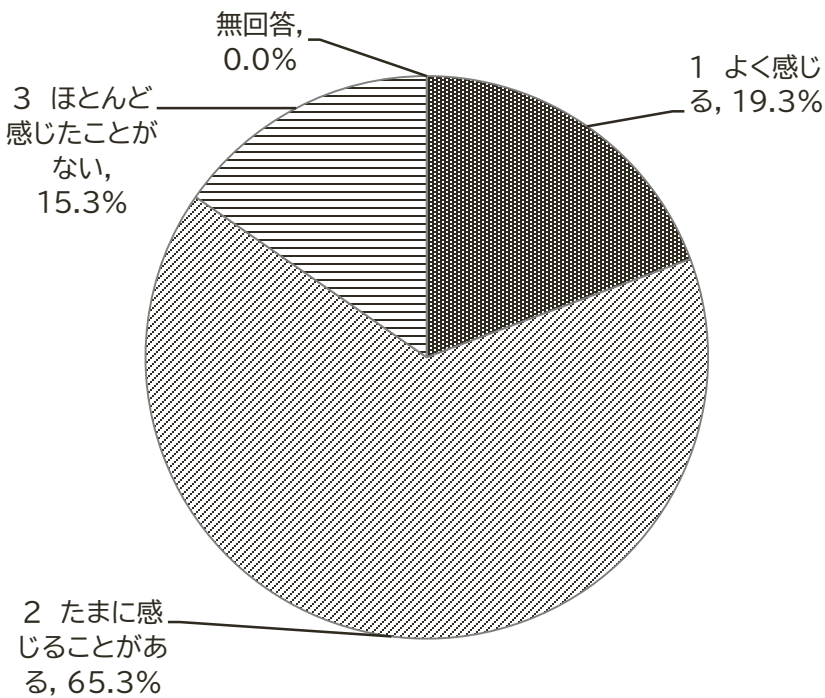
【調査結果】

見たり聞いたり、参加したことがある割合が多いのは、「高齢者や障がい者の疑似体験」、「高齢者生活支援」、「障がい者生活支援」となっている。

問6

まちの中の「ハード」（公共的施設、道路など）を利用又は移動するときにはバリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる	34	19.3%	50	25.5%
2 たまに感じることもある	115	65.3%	118	60.2%
3 ほとんど感じたことがない	27	15.3%	28	14.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	176	100.0%	196	100.0%



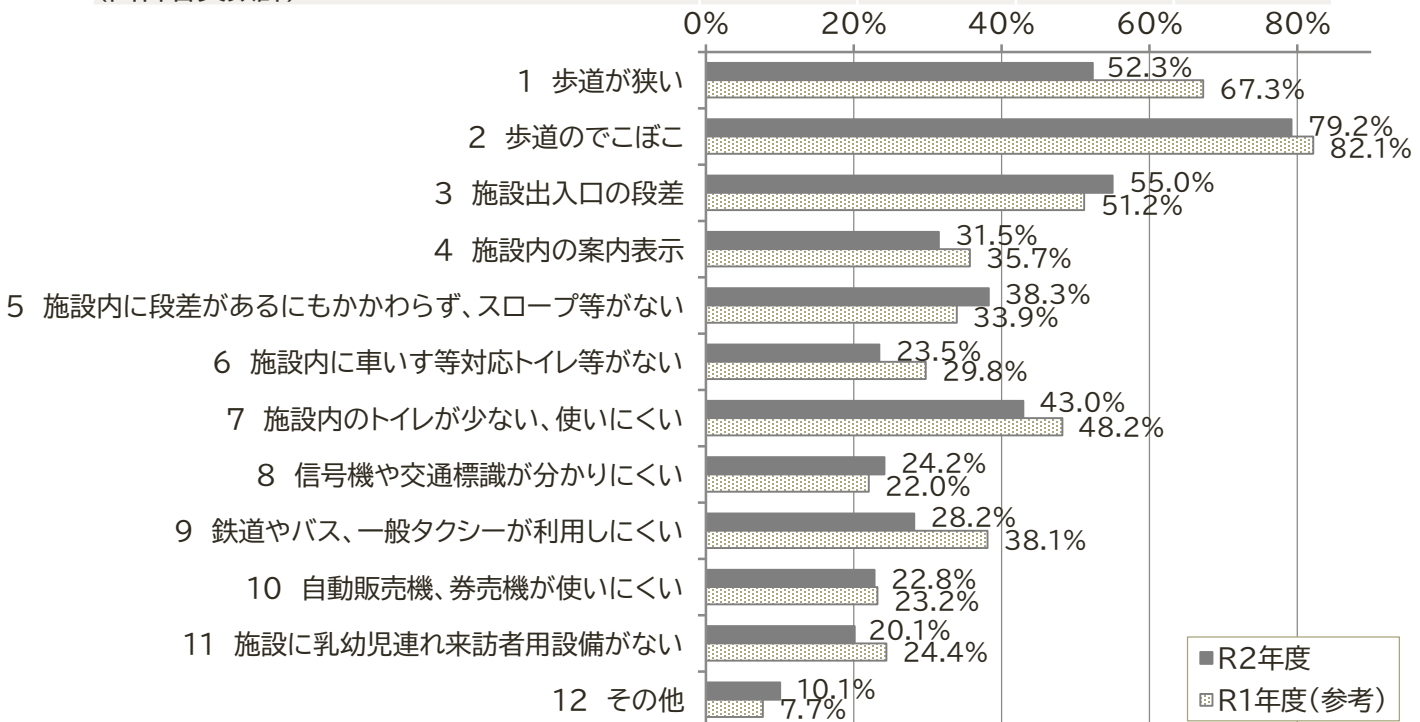
【調査結果】

「よく感じる」「たまに感じることもある」と回答した方の割合は、84.6%となり、令和元年度と比較して1.1ポイント減少した。

問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	78	52.3%	113	67.3%
2 歩道のでこぼこ	118	79.2%	138	82.1%
3 施設出入口の段差	82	55.0%	86	51.2%
4 施設内の案内表示	47	31.5%	60	35.7%
5 施設内に段差があるにもかかわらず、スロープ等がない	57	38.3%	57	33.9%
6 施設内に車椅子等対応トイレ等がない	35	23.5%	50	29.8%
7 施設内のトイレが少ない、使いにくい	64	43.0%	81	48.2%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	36	24.2%	37	22.0%
9 鉄道やバス、一般タクシーが利用しにくい	42	28.2%	64	38.1%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	34	22.8%	39	23.2%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	30	20.1%	41	24.4%
12 その他	15	10.1%	13	7.7%
(回答者実数計)	149	-	168	-



【調査結果】

歩道（狭い、でこぼこ）にバリアを感じると回答した方が多く、歩道のでこぼこについては、約8割の方がバリアと感じている。

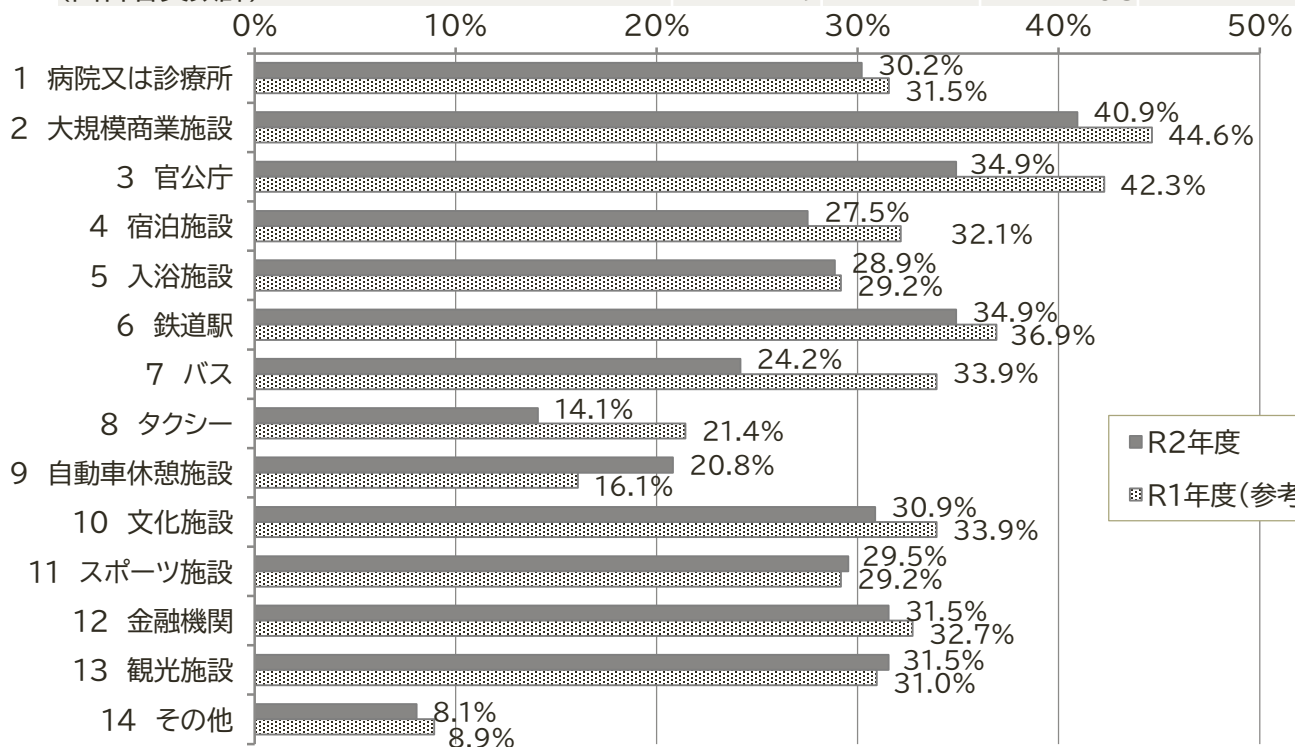
<12その他の内容>

- 視覚支援学校の近くの道路（歩行者用）が除雪されていない。
- 最近、家族が車椅子を使用するようになり、歩道の段差が気になる。特に、郊外で狭さ、破損が酷い。
- 歩道が無いところがある。
- 休憩室的な簡易なものがあればよい。
- ヘイトスピーチや差別がある言論全て。
- 点字ブロックが浮いてつまづきやすくなったり、点字シートがはがれていたりする。
- トイレについて。洋式にしたのは良いが、狭くてドアを閉めるのも不便と感じるところがある。節約のためか、あまりにも照明が暗すぎる。使用できないようにしているところもある。
- 息子は、車椅子生活です。自販機から飲料水を買う際、不便しています。
- 女子トイレには授乳スペースやおむつ交換スペースがあるが、男性側にはなく、父親はとても大変。困る。
- 視覚障がい者のための歩道の黄色いブロックが剥がれている所がある。馬頭踏切の辺り。
- 車椅子使用者です。仕方のないこととは思いますが、道路路面の凹凸がひどいです。へこみを埋めるつぎはぎは、やり方を変えていただきたい。それだけでも随分使い勝手がよくなります。
- 自動ドアでも手をかざさないと開かない。自動ドアでなく、車椅子で出入りに不便。
- 歩けるようになった幼児が階段を登ろうとしても、傾斜が急だったり、一段一段の高さが高く登りづらい。
- 精神障害者の私は、相手に分かりにくい。分かってもらえない。
- 歩道が狭く、段差もあったりして凸凹で、自転車走行で危険な目にあったが、町並が変わったかと思うくらいに、今年の冬（一月二月頃）にきれいになった（高木小路）。

問8

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	45	30.2%	53	31.5%
2 大規模商業施設	61	40.9%	75	44.6%
3 官公庁	52	34.9%	71	42.3%
4 宿泊施設	41	27.5%	54	32.1%
5 入浴施設	43	28.9%	49	29.2%
6 鉄道駅	52	34.9%	62	36.9%
7 バス	36	24.2%	57	33.9%
8 タクシー	21	14.1%	36	21.4%
9 自動車休憩施設	31	20.8%	27	16.1%
10 文化施設	46	30.9%	57	33.9%
11 スポーツ施設	44	29.5%	49	29.2%
12 金融機関	47	31.5%	55	32.7%
13 観光施設	47	31.5%	52	31.0%
14 その他	12	8.1%	15	8.9%
(回答者実数計)	149	-	168	-



【調査結果】

大規模商業施設、官公庁、鉄道駅の順に、バリアを感じると回答した方の割合が多い。

<14その他の内容>

●道路

●自宅のバリアフリーが先決。

●狛鼻溪駅は、観光地であるにもかかわらず、階段が急で危ない。せめてスロープが欲しい。映画館の施設は、親切でないというか、不足している。

●道の駅たのはたが仮設になっているので、早くどうにかしてほしい。お寺のお墓に行く道。

●⑪のスポーツ施設は、健常者が主体の施設という考え方になっている？スロープなどが玄関から遠い所に配置されている所が多い。

●①の病院又は診療所は、古い建造物は段差があり、諦めることが多い。

東北線花巻駅から盛岡に車椅子で乗車すると、エレベーターは途中矢巾にしかなくて電車は利用できない。

●できている場所はできているができていない場所はできていない。

●道路（歩道）

●歩道

●いつでも自家用車なので乗り場で苦労する事はないです。他の施設もほとんど利用しないので感じません。

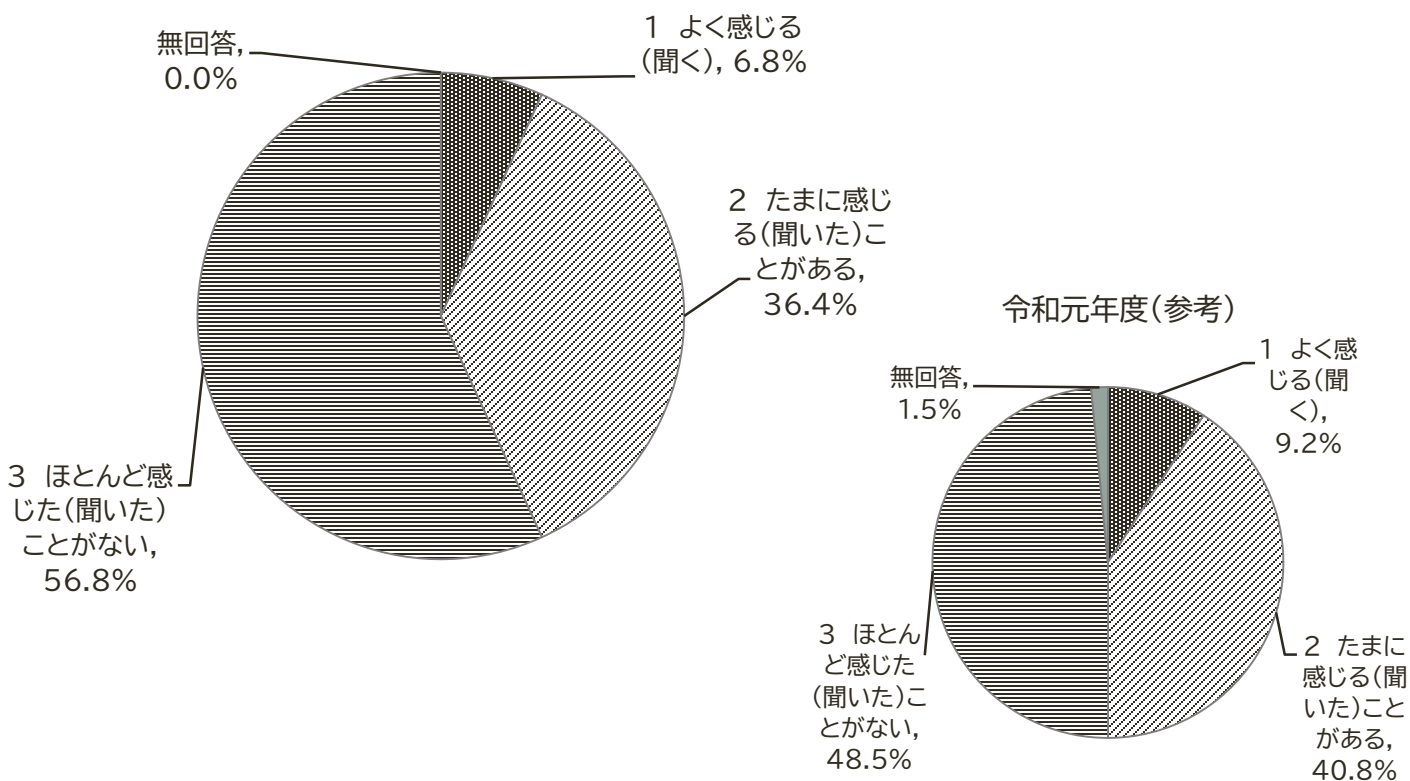
●どの施設も、新しい所は良いが、古い施設や診療所などは、バリアがある。

●店に入った時、変人に見られる。誤解される。

問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車椅子用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車椅子の適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞いたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる(聞く)	12	6.8%	18	9.2%
2 たまに感じる(聞いた)ことがある	64	36.4%	80	40.8%
3 ほとんど感じた(聞いた)ことがない	100	56.8%	95	48.5%
無回答	0	0.0%	3	1.5%
合計	176	100.0%	196	100.0%



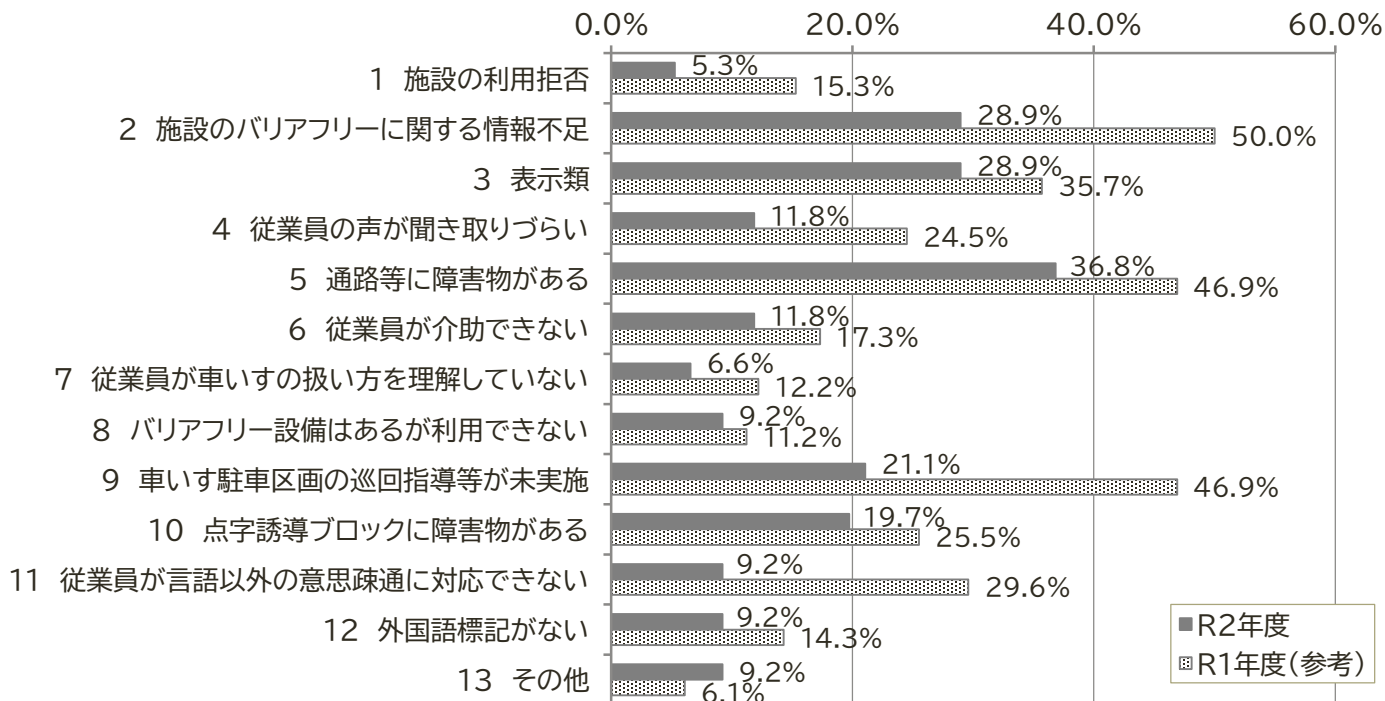
【調査結果】

「よく感じる(聞く)」、「たまに感じる(聞いた)ことがある」と回答した方の割合が、43.2%となり、令和元年度と比較して、6.8ポイント減少した。

問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	4	5.3%	15	15.3%
2 施設のバリアフリーに関する情報不足	22	28.9%	49	50.0%
3 表示類が見つらい	22	28.9%	35	35.7%
4 従業員の声が聞き取りづらい	9	11.8%	24	24.5%
5 通路等に障害物がある	28	36.8%	46	46.9%
6 従業員が介助できない	9	11.8%	17	17.3%
7 従業員が車椅子の扱い方を理解していない	5	6.6%	12	12.2%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	7	9.2%	11	11.2%
9 車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施	16	21.1%	46	46.9%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	15	19.7%	25	25.5%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	7	9.2%	29	29.6%
12 外国語標記がない	7	9.2%	14	14.3%
13 その他	7	9.2%	6	6.1%
(回答者実数計)	76	-	98	-



【調査結果】

「通路等に障害物がある」、「施設のバリアフリーに関する情報不足」、「車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施」と回答した方の割合が多い。

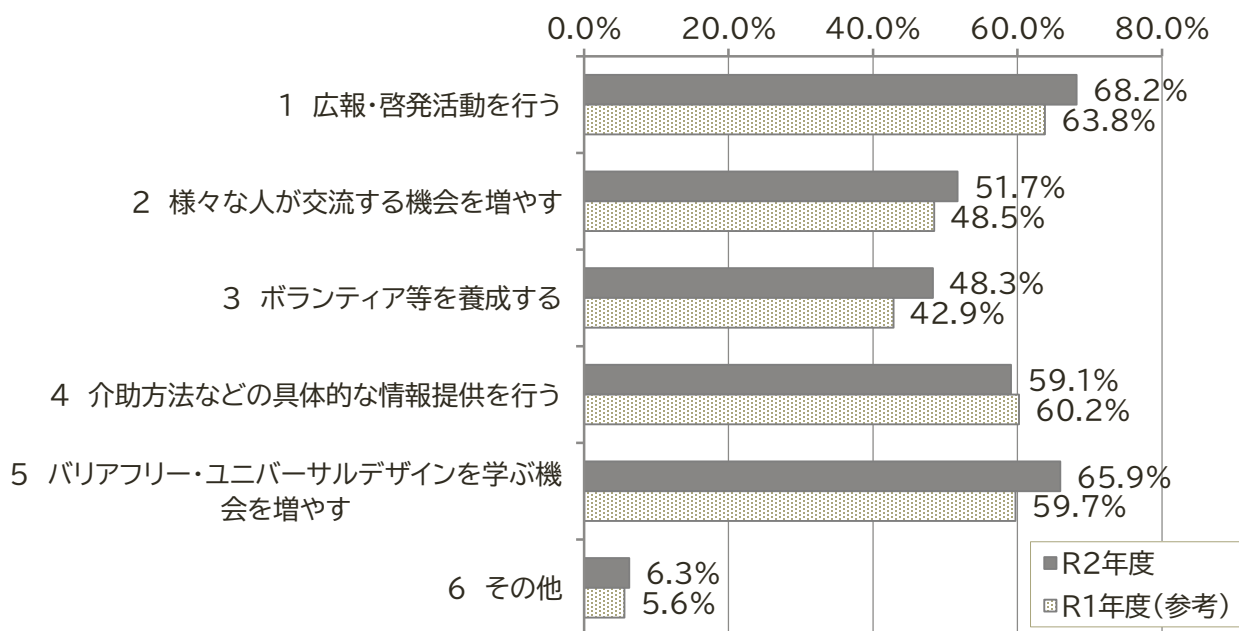
<13その他の内容>

- 小規模の店や商店街などの空き地利用や、固定資産税の減免
- 手すりのある廊下の、手すりがある部分に長イスを置いているところがあったりする。
- スーパーで通路が狭い所を車椅子で買い物していたら、混雑していたために人と接触して、いやな顔された（客に）。スペースをゆったりとって欲しい。
- 階段の昇降機が故障していたが、そのままになっていた。他にも故障中になっているが、修理されないままのものが多い。
- 車椅子ユーザーです。介助者がいても、更に手助けがいる場合があります。理解していただきたいです。
- 岩手県交通のバスの乗降口に段差がありケガをしそうだと聞きました。
- 道路などの点字誘導ブロックがはがれている。

問11-1

「ひとにやさしいまちづくり」では、建物（ハード）や人の対応など（ソフト）だけではなく、様々な人々の立場を理解し、適切な行動を取ることができるよう、人を思いやることのできる心の醸成が大切であると考えられますが、心の醸成を進めるために、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	120	68.2%	125	63.8%
2 様々な人が交流する機会を増やす	91	51.7%	95	48.5%
3 手助けするボランティア等を養成する	85	48.3%	84	42.9%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	104	59.1%	118	60.2%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	116	65.9%	117	59.7%
6 その他	11	6.3%	11	5.6%
無回答	0	0.0%	1	0.5%
合計	176	-	196	-



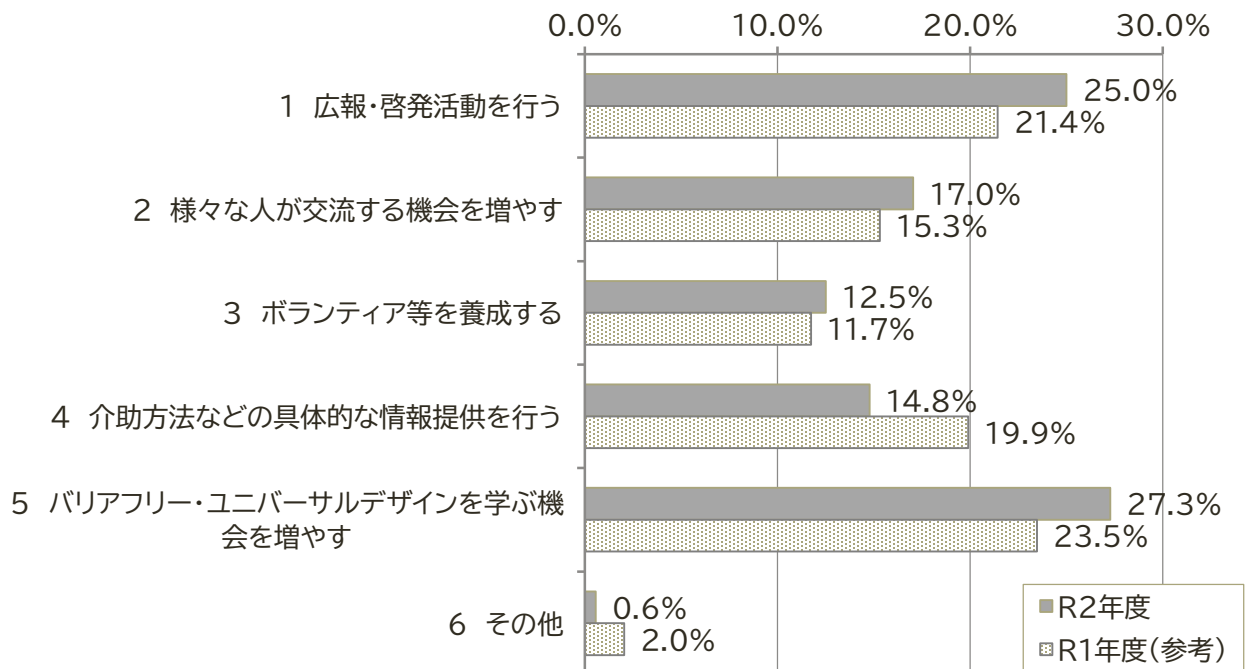
【調査結果】

「広報・啓発活動を行う」、「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」、「介助方法などの具体的な情報提供を行う」の順に、回答した方の割合が多い。

問11-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	44	25.0%	42	21.4%
2 様々な人が交流する機会を増やす	30	17.0%	30	15.3%
3 手助けするボランティア等を養成する	22	12.5%	23	11.7%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	26	14.8%	39	19.9%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	48	27.3%	46	23.5%
6 その他	1	0.6%	4	2.1%
無回答	5	2.8%	12	6.1%
合計	176	100.0%	196	100.0%



【調査結果】

「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」が最も多く27.3%となり、次いで、「広報・啓発活動を行う」、「様々な人が交流する機会を増やす」の順に、回答した方の割合が多い。

< 6 その他の主な内容 >

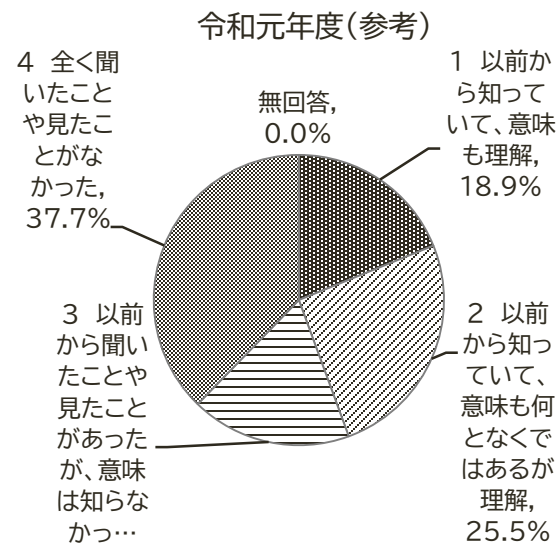
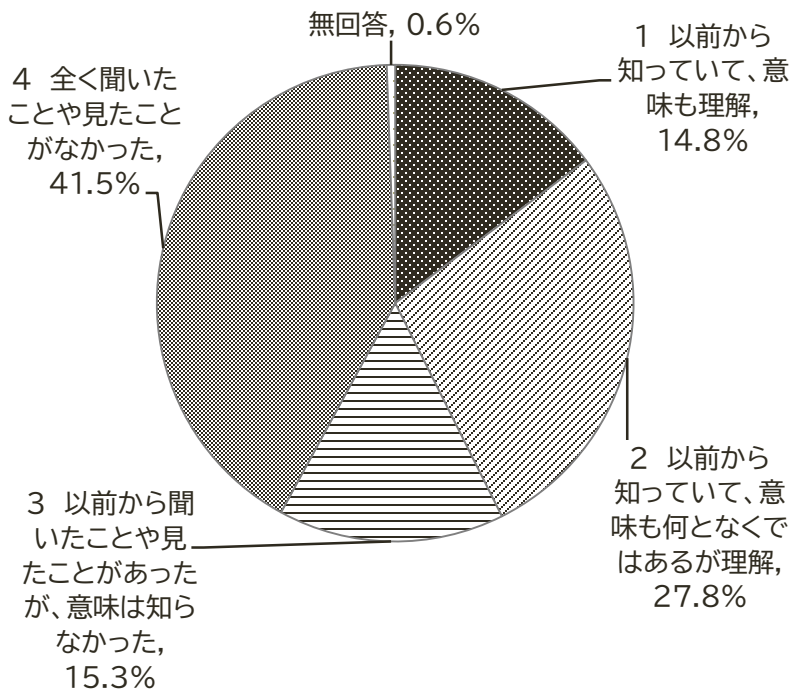
- 障がいのある人・高齢者・そうでない人々が一つの目的で（まちづくり）活動する。一体感を持つ。
- 自己の「ひとにやさしくする」という意識の向上。
- ごく普通に当たり前のこととして行動できる心が育つ社会であればと思う。
- 今、私の地域では高齢者の買い物ツアーを社会福祉協議会の協力で取り組んでいます。ひとにやさしいまちづくりと思っています。
- 障がい者スポーツへの取組やアウトサイダー・アートを広める。教育で（特に小学校で）分け隔てをなくす。
- 職場で義務的に、年に1回くらい教育を行うといいと思います。是非必要。
- その人の立場にならないと分からないでしょう。広報なら各家庭配布なので○（まる）です。他にもテレビの「いわてわんこ広報室」での放送も。
- 幼児～高校の間に交流の場をつくる（病院、施設等）。机上の勉強はだめ。
- 「人を思いやる」社会の確立。
- 会社の中でも体験する機会があれば。修了証等でもいいので資格がとれたらいい。
- 平成14年の秋頃にカメラや巻き尺などを持って、「駅、公民館、郵便局などバリアフリー調査」に参加したことがある。県の事業だったと思う。

問12

県では、外見からは援助や配慮を必要とすることが分からない方が身に付けることによって、援助や配慮を得られやすくなるよう、「ヘルプマーク」の配付・普及に取り組んでいます。

「ヘルプマーク」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて、マークの意味も理解していた	26	14.8%	37	18.9%
2 以前から知っていて、マークの意味も何となくではあるが理解していた	49	27.8%	50	25.5%
3 以前から聞いたことや見たことがあったが、マークの意味は知らなかった	27	15.3%	35	17.9%
4 全く聞いたことや見たことがなかった	73	41.5%	74	37.7%
無回答	1	0.6%	0	0.0%
合計	176	100.0%	196	100.0%



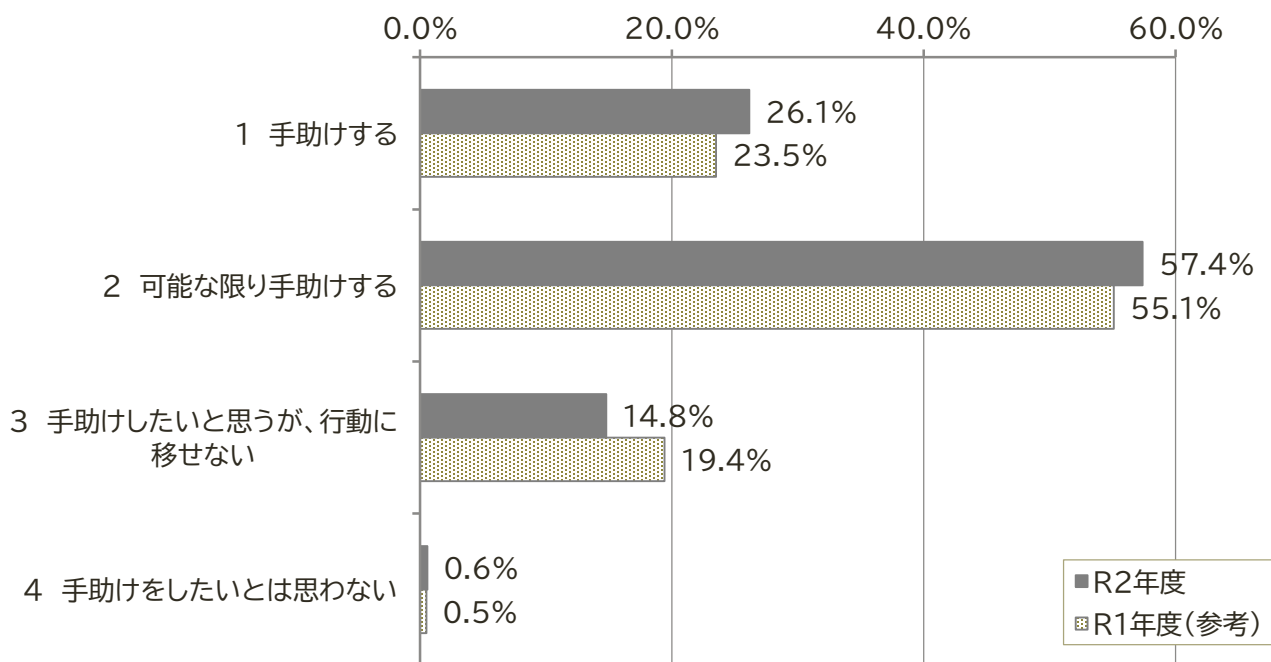
【調査結果】

今年度からの質問項目である。ヘルプマークの意味を「理解していた」、「何となくではあるが理解していた」と回答をした方の割合は、4割程度となった一方で、「全く聞いたことや見たことがなかった」と回答した方の割合も4割程度となった。

問13

あなたは、外出の際、車椅子の方が段差で進めなくなっていたり、視覚障がいのある方が迷っていたり、外国人の方が駅や道で迷っていたりした場合など、困っている様子を見かけた場合、声をかけて手助けをしますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 手助けする	46	26.1%	46	23.5%
2 可能な限り手助けする	101	57.4%	108	55.1%
3 手助けしたいと思うが、行動に移せない(かもしれない)	26	14.8%	38	19.4%
4 手助けしたいとは思わない	1	0.6%	1	0.5%
無回答	2	1.1%	3	1.5%
合計	176	100.0%	196	100.0%



【調査結果】

「手助けをする」、「可能な限り手助けをする」と回答した割合は、83.5%となり、令和元年度と比較して4.9ポイント増加した。

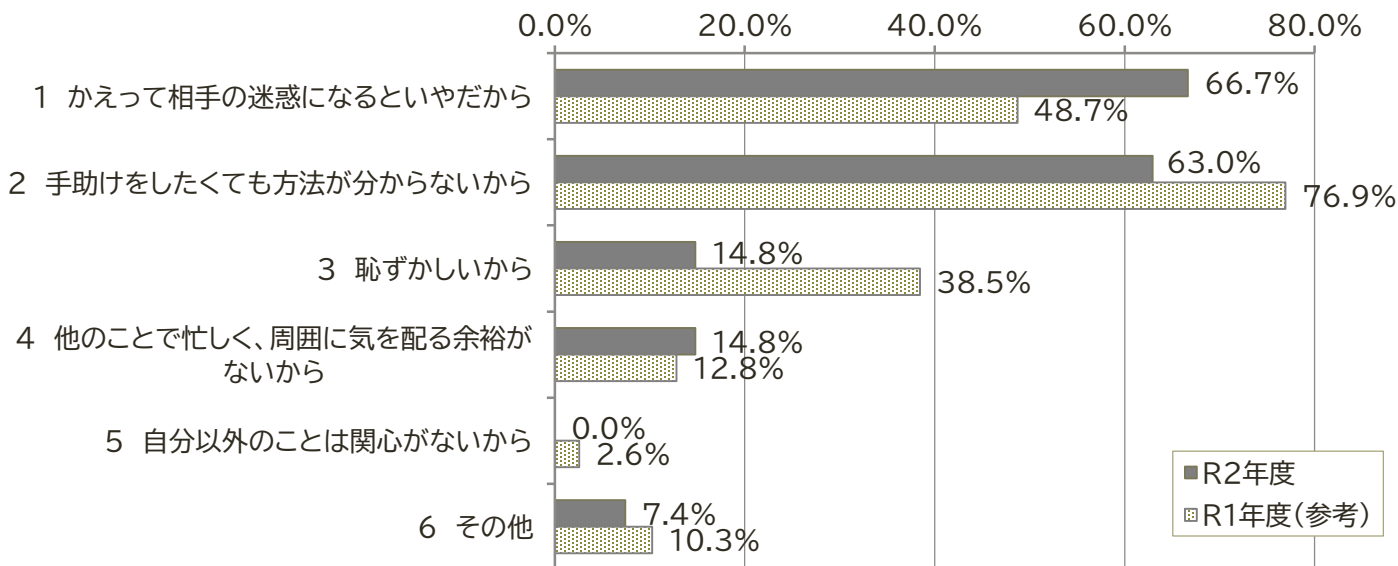
問14

問13で③又は④を選択された方にお聞きします。手助けをしない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 かえって相手の迷惑になるといやだから	18	66.7%	19	48.7%
2 手助けをしたくても方法が分からないから	17	63.0%	30	76.9%
3 恥ずかしいから	4	14.8%	15	38.5%
4 他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから	4	14.8%	5	12.8%
5 自分以外のことは関心がないから	0	0.0%	1	2.6%
6 その他	2	7.4%	4	10.3%
(回答者実数計)	27	-	39	-

<6 その他の内容>

- コロナのいま、人に話しかけることをためらう。
- 助けを求められれば応じらと思うが、自分から声をかけてまではしないと思う。



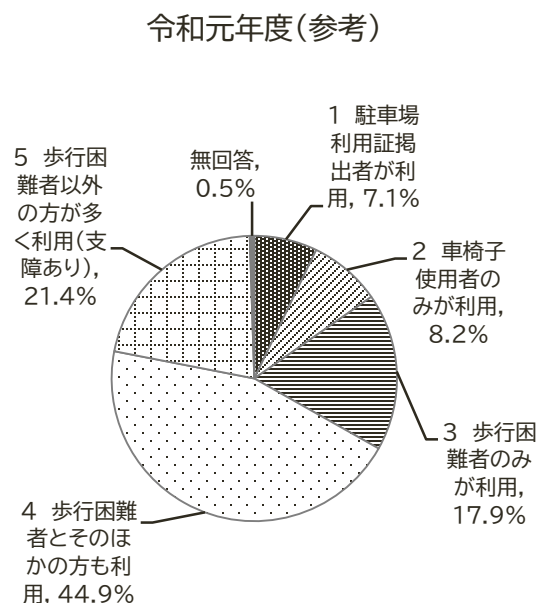
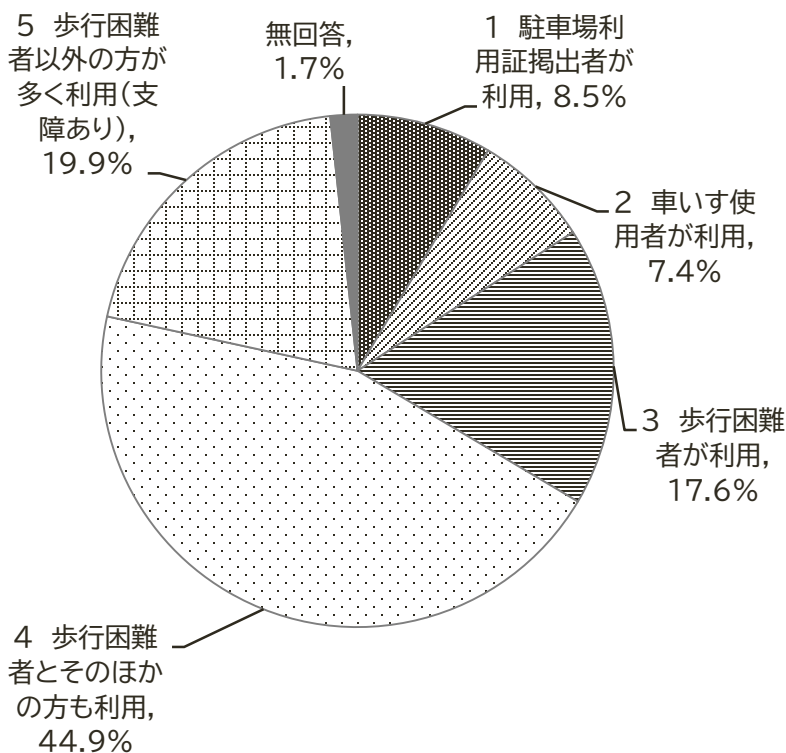
【調査結果】

「かえって相手の迷惑になるといやだから」と回答した方の割合が66.7%と最も多い。次いで、「手助けをしたくても方法が分からないから」と回答した方の割合が63.0%となった。

問15

公共的施設には、車椅子を使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車椅子駐車区画」が設けられています。最近の車椅子駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者が利用	15	8.5%	14	7.1%
2 車椅子使用者のみが利用	13	7.4%	16	8.2%
3 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者のみが利用	31	17.6%	35	17.9%
4 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者とそのほかの方も利用	79	44.9%	88	44.9%
5 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者以外の方が多く利用(支障あり)	35	19.9%	42	21.4%
無回答	3	1.7%	1	0.5%
合計	176	100.0%	196	100.0%



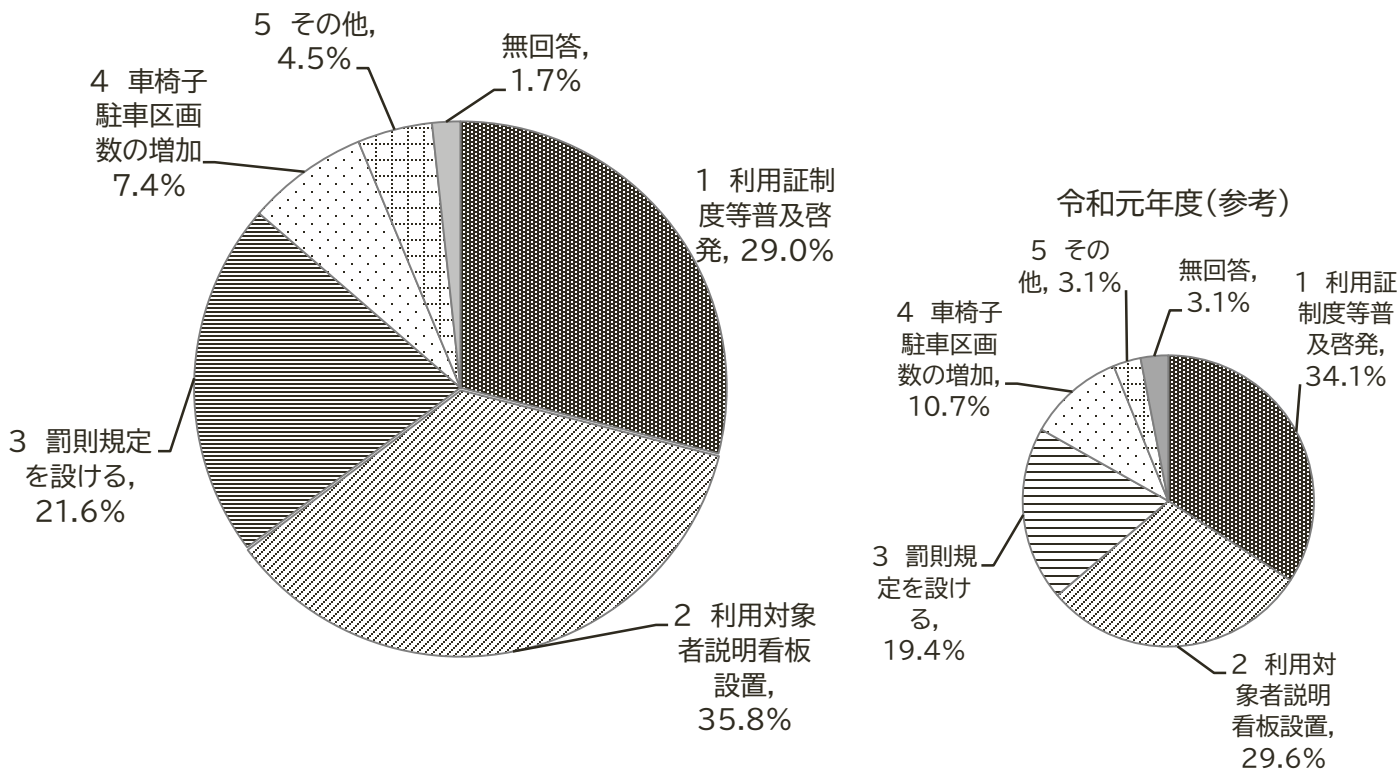
【調査結果】

「歩行困難者以外の方が多く利用(支障あり)」と回答した割合は、1.5ポイント減少したものの、「歩行困難者とそのほかの方も利用」と回答した割合と合わせて、6割以上の方が、歩行困難者以外の方の利用があるとしている。

問16

車椅子駐車区画を車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたら良いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	51	29.0%	67	34.1%
2 利用対象者説明の看板設置	63	35.8%	58	29.6%
3 罰則規定を設ける	38	21.6%	38	19.4%
4 車椅子駐車区画数の増加	13	7.4%	21	10.7%
5 その他	8	4.5%	6	3.1%
無回答	3	1.7%	6	3.1%
合計	176	100.0%	196	100.0%



【調査結果】

令和元年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車椅子駐車区画利用対象者の説明看板の設置を求める声が多い。

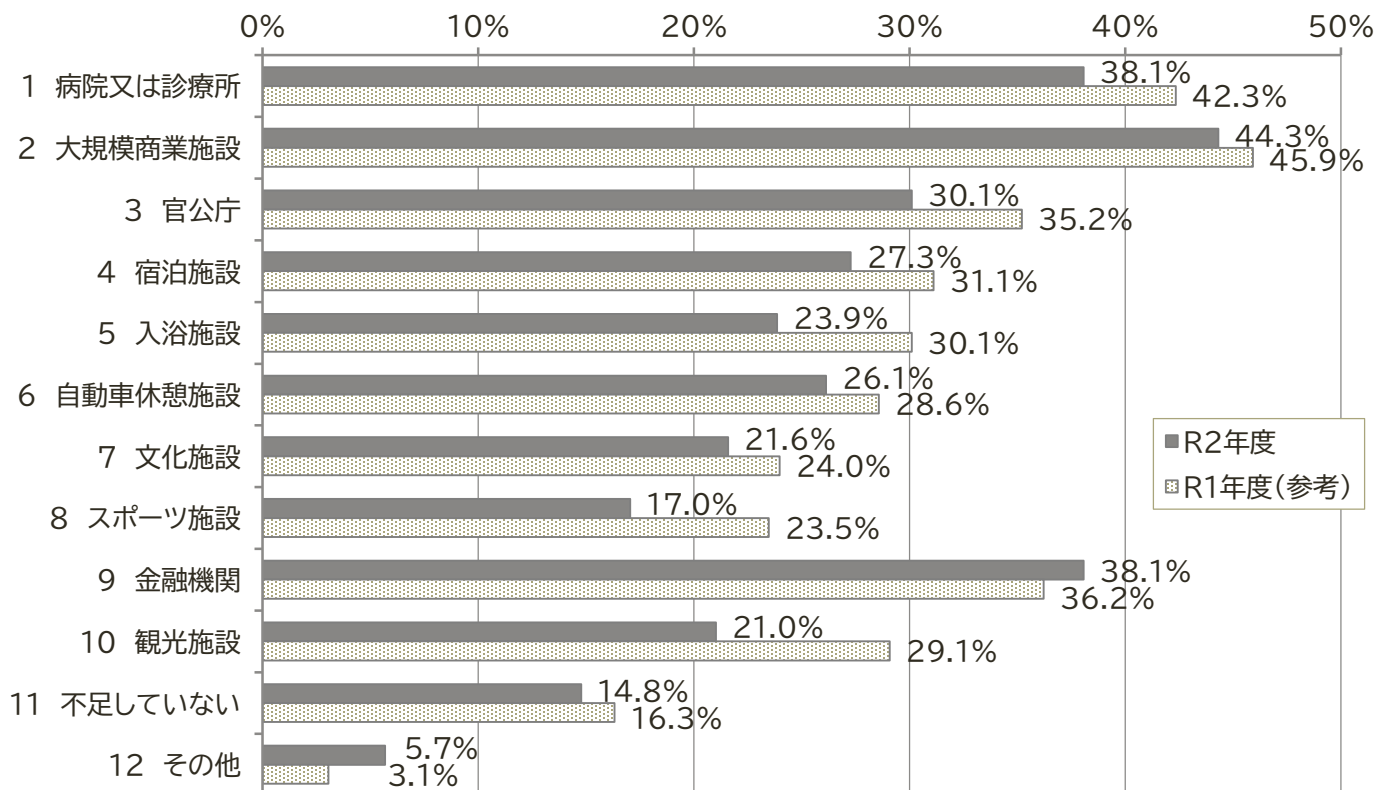
< 5 その他の内容 >

- 車椅子駐車区画を利用できる人が、車にそのマークを出さずに使用しているのが見受けられる。
- 車椅子駐車区画を使用可能な車がはっきり分かるようなステッカー（それを証明した看板）を設置する。
- 一定期間監視カメラを取り付け、データを取り、対応を検討する。
- 人にやさしい自覚だと思えます。
- 常識のない自分勝手な人に使わせないためには、条例にある程度の罰則を定めるしかないのではないのでしょうか？性善説は通用しないと思えます。
- 該当者以外の方の心に響くようなポスター、チラシなどを貼る。
- 駐車区画をすべて、車椅子対応に広く設置する。高齢運転者が駐車する際にも、助かると思う。（駐車台数は減りますが。）
- 対象者には駐車証QRコードなどを発行し、駐車する際、コード読み取りで駐車完了となるような仕組みを作る。非対象者が使用した場合、駐車不可能となるような仕組みにする。

問17

次の施設のうち、車椅子駐車区画が不足していると思う施設を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	67	38.1%	83	42.3%
2 大規模商業施設	78	44.3%	90	45.9%
3 官公庁	53	30.1%	69	35.2%
4 宿泊施設	48	27.3%	61	31.1%
5 入浴施設	42	23.9%	59	30.1%
6 自動車休憩施設	46	26.1%	56	28.6%
7 文化施設	38	21.6%	47	24.0%
8 スポーツ施設	30	17.0%	46	23.5%
9 金融機関	67	38.1%	71	36.2%
10 観光施設	37	21.0%	57	29.1%
11 不足していない	26	14.8%	32	16.3%
12 その他	10	5.7%	6	3.1%
(回答者実数計)	176	-	196	-



【調査結果】

大規模商業施設と回答した割合が最も多く、4割を超えている。次いで、病院又は診療所、金融機関が多くなった。

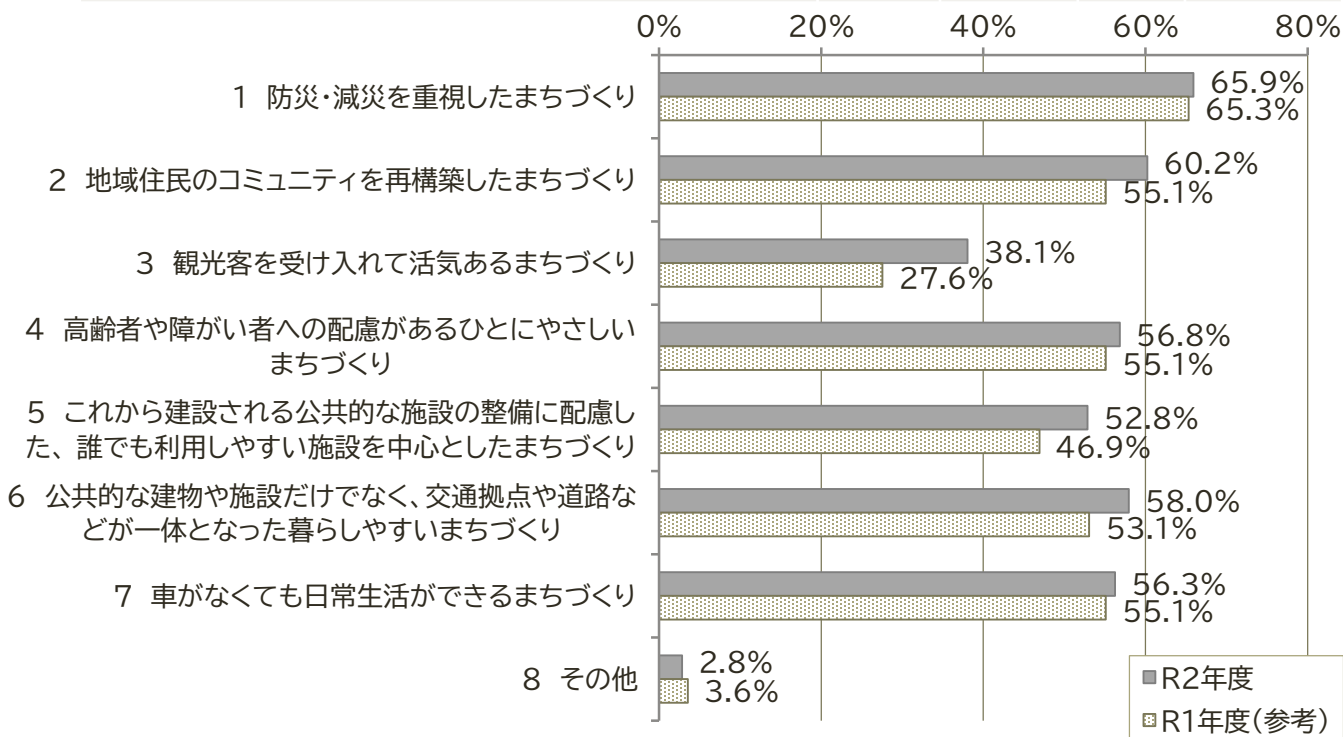
<12その他の内容>

- パーセンテージ等、決められていますか？
- 屋外用の車椅子があっても良いのではないか。特に景勝地での利用。
- 携帯電話やナビで駐車場の空きが分かるようにする。（アプリで可能）
- 花巻市役所は、庁舎が古く、駐車場が狭いため、車椅子駐車区画が少ないです。駐車場があっても車間が狭い所もあります。乗降の際、危険。
- 駐車区画の表示が薄れている場所あり。はっきり判るように。
- 運転をしないので、分からない。
- 心してみたことがない。
- どの施設も新しい所は良いが、古い建物や、小さな所は、整備されていない所がある。
- 駐車場が空いていると思ったら、車椅子駐車場だった事がよくあるので、実際不足してるかどうか分からない。
- 金融機関は、車椅子用駐車区画を設けていないところ多いと感じる（用地がないせいか、郵便局など）。

問18-1

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの考え方で重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	116	65.9%	128	65.3%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	106	60.2%	108	55.1%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	67	38.1%	54	27.6%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	100	56.8%	108	55.1%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、誰でも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	93	52.8%	92	46.9%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	102	58.0%	104	53.1%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	99	56.3%	108	55.1%
8 その他	5	2.8%	7	3.6%
(回答者実数計)	176	-	196	-



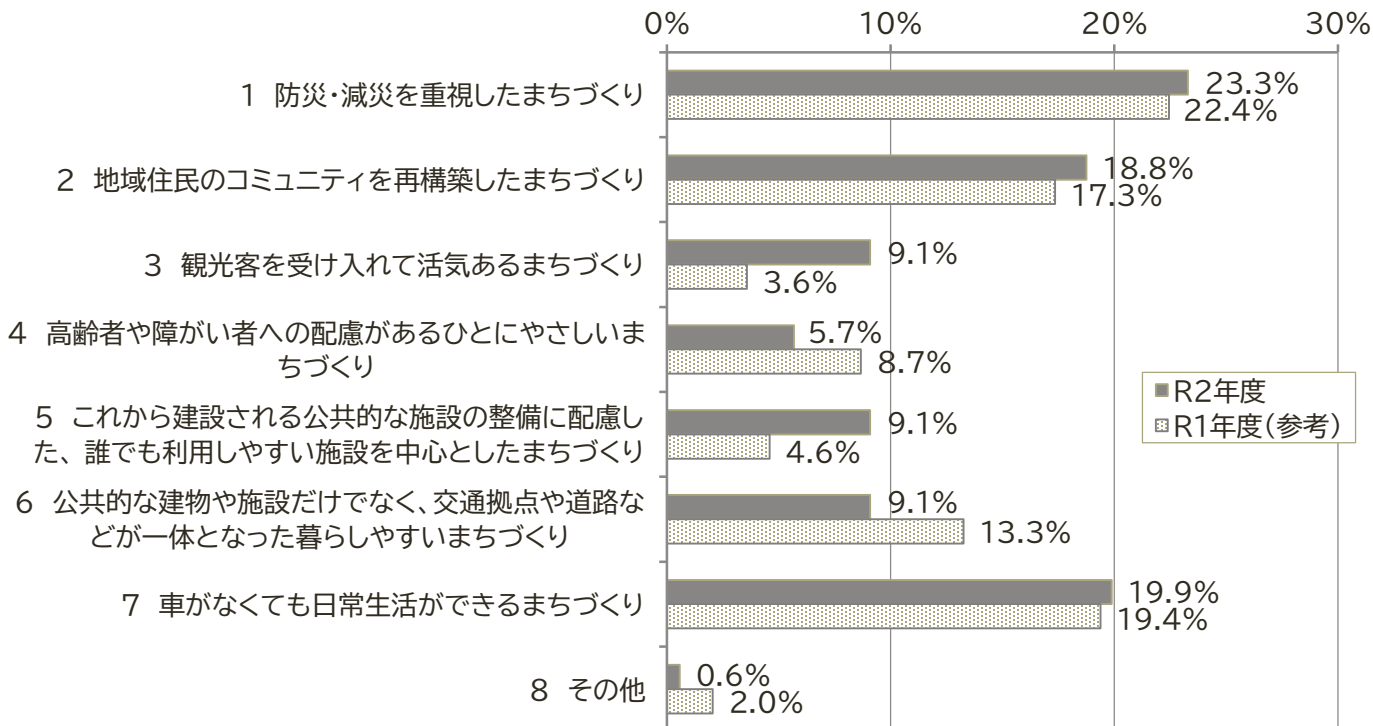
【調査結果】

「防災・減災を重視」が、令和元年度と同様に最も多く、次いで、「地域住民のコミュニティの再構築」が多くなった。

問18-2

さらに、その中で最も重要だと思うものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	41	23.3%	44	22.4%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	33	18.8%	34	17.3%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	16	9.1%	7	3.6%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	10	5.7%	17	8.7%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、誰でも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	16	9.1%	9	4.6%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	16	9.1%	26	13.3%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	35	19.9%	38	19.4%
8 その他	1	0.6%	4	2.0%
無回答	8	4.5%	17	8.7%
合計	176	-	196	-



【調査結果】

「防災・減災を重視」、「車がなくても日常生活ができるまちづくり」、「地域住民のコミュニティを再構築」の順に多くなっている。

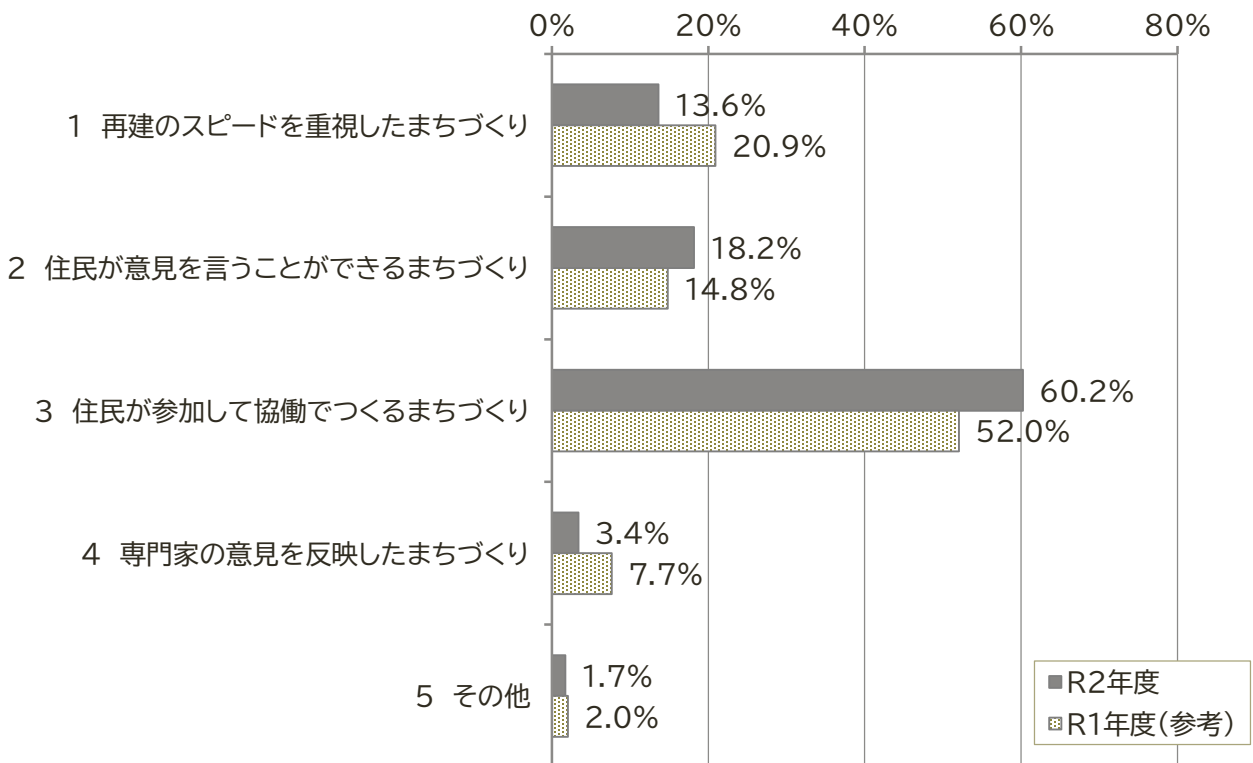
< 8 その他の内容 >

- 産業のあるまちづくり。
- ②と③、他の番号が整備されればすべて解決すると思う。
- 地域をどう設定するか！必ずしも区画ではなく、重なっても良いと思う。つなげること。
- 沿岸部は高齢化が進み、今後は④が重要と思います。
- 内陸に避難した方へのフォローアップ。沿岸のアンテナショップを内陸に開店、店員を内陸避難者にし、被災者の方が他とのコミュニティを作る機会をつくる。

問19

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの進め方として、特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 再建のスピードを重視したまちづくり	24	13.6%	41	20.9%
2 住民が意見を言うことができるまちづくり	32	18.2%	29	14.8%
3 住民が参加して協働でつくるまちづくり	106	60.2%	102	52.0%
4 専門家の意見を反映したまちづくり	6	3.4%	15	7.7%
5 その他	3	1.7%	4	2.0%
無回答	5	2.8%	5	2.6%
合計	176	100.0%	196	100.0%



【調査結果】

「住民が参加して協働でつくるまちづくり」が、6割を超えて最も多く、次いで、「住民が意見を言うことができるまちづくり」が多くなった。

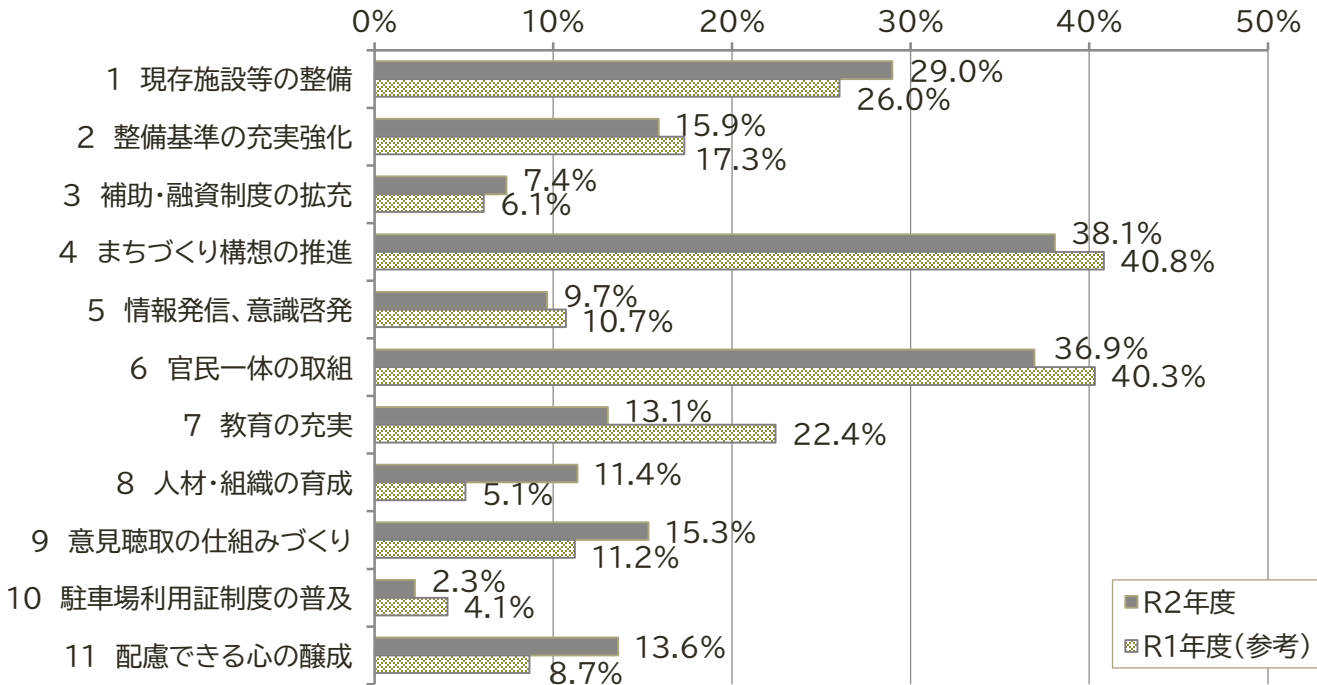
< 5 その他の内容 >

- 本来の景観を大切にしたいまちづくりを目指してほしい。海が見えない沿岸は少し違うと思う。自然を受け入れて、その中での生活が可能になるようなまちづくりを期待しています。
- 理想論だが①～④全てをクリアできれば良い。そうってから考えるのではなく、そうなる前に方向性を決めればベター。考えなしではどうしても①になる。
- 住民の意見を反映させたまちづくり。

問20

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの）

	令和2年度		令和元年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	51	29.0%	51	26.0%
2 整備基準の充実強化	28	15.9%	34	17.3%
3 補助・融資制度の拡充	13	7.4%	12	6.1%
4 まちづくり構想の推進	67	38.1%	80	40.8%
5 情報発信、意識啓発	17	9.7%	21	10.7%
6 官民一体の取組	65	36.9%	79	40.3%
7 教育の充実	23	13.1%	44	22.4%
8 人材・組織の育成	20	11.4%	10	5.1%
9 意見聴取の仕組みづくり	27	15.3%	22	11.2%
10 ひとにやさしい駐車場利用証制度の普及	4	2.3%	8	4.1%
11 マークの普及をはじめとする配慮できる心の醸成	24	13.6%	17	8.7%
(回答者実数計)	176	-	196	-



【調査結果】

「まちづくりの構想の推進」、「官民一体となった取組」が3割を超え最も多い。令和元年度と比較して、「教育の充実」が9.3ポイント減少した一方、「人材・組織の育成」「配慮できる心の醸成」「聴取の仕組みづくり」がそれぞれ5ポイント前後増加した。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- ヘルプマークをもっと周知させたほうがいいのではないのでしょうか。私のように見たことはあっても、どのような意味を持つのか知らない人が多いような気がします。
- 昔から近所同士で暮らしている地域と、新しく創られてゆく地域では、想い方、進め方は違うと思います。
- 前期高齢者の仲間入りした自分を考えて、バリアフリーなどは当然のことと思います。岩手は、特に私が住んでいる所は積雪も多く、雪かきできない一人暮らしの人がたくさんいます。私もいずれそのようになったとき、駐車場や公的場所はすぐにやってくれますが、個人となればそうはいきません。そういうソフト面でもひとにやさしいまちづくりを目指してほしいです。
- 学校教育に期待。身の回りに対象者がいれば別だが、いなければ…。
- ヘルプマークの普及に力を入れてほしい。
- 私は医療学校に行って学んでいるから、少しはバリアフリーや高齢者、障がい者の方の生活を意識することがあるが、まだ認識も少なく、偏見がある人にも多いと思う。だからこそ町全体での情報共有が人にやさしいまちづくりに必要だと思う。
- 民家の並ぶ地域にトラックの出入りする工場が存在したり。県の決めた工業地帯に暮らす人々には「やさしいまち」は少々遠い夢なのかもしれません。
- 知人が障害者手帳を持っているが、見た目では障がい者と分からないので、車の障がい者マークをつけようとしめない。健康体（にみえる）の自分が車からおりたら、周りは眉をひそめるだろうから、ということだった。障がい者の方が、遠慮なく生きていけるまちになればいいと思う。
- 震災・高齢化で限界集落が多くなる（公共交通機関等の廃止）。早目に市町村の統合（集約）を考えてもらいたい。
- 公共的施設に障がい者用、高齢者用の洋式トイレの増設を願います。また、手ふき用紙の設置もお願いしたいです。
- 情報発信は常に必要だと思います。キャッチ出来るように。
- 近くに困っている人が見えないので、あまり不便に感じていませんが、高齢者をはじめ、体に不自由を感じている方が快適に暮らせる街は、誰もが快適に感じる街だと思う。
- 住民の意見をきく場合、経験豊富で口の立つ大人だけでなく、意見を述べる機会が少ない小中高生などからもしっかり聞くことが大事である。
- 町づくりは人づくりでもあるので地域の人々の参画できる施策を望みます。
- 行政と地域が協力して取り組むことが大切である。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●近年、少なからずいる自分勝手な人が目に見えて多くなったと思います。教育はとても大事だし、マスコミ報道の取り上げ方なども重要だと思います。そういったモラルの点については、今の子どもたちにはネットを使った啓蒙も有効だと思います。興味をひく形でのYouTube等を利用したネット番組を作ってみるのもいいのではないのでしょうか。

●経済効果が見えにくい事業は後手に回りがちに思える。民間の力をあてにするだけでなく、いろいろな人の声に耳を傾けながら、公の機関が率先、リードして進める必要があると感じる。それが国や県や市町村の税金の使い方と思う。

●人口減少、少子高齢化と言われる中、利用しやすい環境を整えるために新しい公共施設を建設することには疑問がある。今ある施設も有効活用されていない現状があり、新しい施設を増やす前に今ある施設を整えて有効活用できる方法を考えていく方が良いのではないかと思う。年代問わず、高齢者や障がい者などの生活弱者に思いやりを持った行動が取れるように、まちづくり推進のための啓蒙活動は積極的に行うべきと思う。

●私は今回「ひとにやさしいまちづくり条例」の事を初めて知りました。私達はそういう社会を望んではいませんが、皆が皆、なかなか行動に移せてはいないのではないのでしょうか。官と民、それぞれの役割がある中で、各々が、それぞれの立場で決して「人に優しい」という視点を忘れる事なく、それぞれの取り組む仕組みを作って行く事が必要。そして、最後は共に取り組む仕組（組織）も必要ではないか。

●誰かに言われてやることや、見返りを求めてやることではなく、そこに住む人がお互いを思い合って行動できるまちになってほしい。ひとの心が豊かになり、ひとの心に働きかけるような広報を望みます。

●買い物、通院など交通的手段がなくなって困っている地域が山間部ではたくさんでてきています。地域を維持していくためには、困っていることを解決していく必要があると思います。住みやすい地域よりも困っている地域にもっと注目して解決策を講じてほしいです。

●車がなくても日常生活ができるまちづくり（コンパクトシティ）。少し歩いて公園や文化施設に行ける、利用出来るまち、子どもと老人にやさしいまちづくりがいちばんです。

●実際自分がその立場にならないと、不便さもわからないと思うので、身近な方とのコミュニケーションでどうあったらよいか考える時があってもいいのかと思う（思いやる気持ち）。

●私も難病を患っていますので、ヘルプマークが浸透するのを期待します。あまりにも気を遣われると、できない人と思われている気もしますが、必要な時(困った時)に活用でき、周りの方に理解していただけたら嬉しいです。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●ユニバーサルデザインの品を沢山取り入れてほしい。蛇口、センサー付、料金投入口、段差等々

●ヘルプマークについて、初めて知りました。このような配慮がされている施設には、看板等があったら良いのかと思いました。

●暮らしやすい＝バリアがないこと。一つ一つのバリアが、何でどこにあるのかを、列挙することから。

●本県においてではないが、ユニバーサルデザインに取り組むNPO法人の活動の一環での体験教室に参加したことがある。健常者が自分達の住む街を車椅子で進むという、普段は経験できない体験であったが、その不便さ(小さな段差でも動きに支障がある)を実体感した。体験してこそユニバーサルデザインの大切さが解る事もあるかと思うので、その様な場や機会を設ければ理解の深まりも広がっていくのではないかと思う。

●地方への移住定住を促す前に、ひとにやさしいまちづくり含めた「住民の意識の改革」が必要であると考えている。他県から来た身として、岩手県民の特徴として「文化、伝統、現状維持、迷惑をかけない、私はこうしてきたから、郷に入っては郷に従え」など、自分を保持する文化や、言いたいことを言わない、また、昔はこうだからという多様性を受け入れないような住民の意識がある気がする。それでは、よそから来た人間も岩手県民も自分の言いたいことも言えず、我慢して生きている方も多いと感じ、暮らしにくい環境もあると思っている。人を地方に呼ぶ前に、住民が、特に多様化する考えや社会に関して、もっと寛容にならなければ、何も始まらないと考える。そのひとつが、ひとにやさしいまちづくりであってほしいと考える。

●「ひとにやさしい」という耳あたりの良い言葉は、それはそれで大切ですが、その言葉のイメージに頼るだけでなく、施策の強い意志を表す何か(カタチ?)がもの足りない印象があります。

●車椅子駐車区画を健康な方が平気で駐車しているのを見ると何とも言えない気持ちになります。

●SDGsに関連したイベントやPR活動を行うなど新しい生活様式や考え方を取り入れながら、誰もが生活しやすい環境作りに力を入れて欲しい。

●歩道の途中に電柱があるのも通行の妨げになっている。アンケートが反映されるようなテレビ広報や「いわてグラフ」に掲載し、周知していけたらよいと思います。

●地域の住民と行政が一体となつての町づくりが必要だと思います。

●高齢化が進むので公共的施設、商業施設を中心としたコンパクトなまちづくりが良いのではと思います。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 障がい者の団体など、対象者との協議が大切と思います。車椅子歩行の息子は、街に出ると人の目が気になると言います。特別な目で見られていると思い込んでいます。
- 岩手県は面積も広く、自動車が必需品となっているが、自動車が無くても生活ができるように、コンパクトシティ化を進めていくことが重要だと思う。
- 高齢者が50年で2000万人増、2020年の出生8千万人台の状況では財政的に非常に厳しい。都市計画を再考し、100年先を見込んだまちづくりをすべき。コンパクトシティをつくるべき。（自動車がなくても暮らせるまちづくりを目指すべき。）
- 駐車場のマナー違反はよく目にする。子供には「守らないと車椅子の人が困るからね」と話している。
- コロナ禍の中、感染者だけでなく障がい者や高齢者にも差別の波が広がらないように願っています。
- 助けを求めやすいまちづくり。
- みんなが思いやりをもって、すぐに手を差しのべられる知識と環境が必要だと思います。
- 県当局が一生懸命にひとにやさしいまちづくりに取り組んでいる姿勢は十分に理解できるし、認識もしている。まだまだだと感じるのは、県民との一体感だ。しかし、これは非常に難しいし、時間がかかることだと思う。行政の独りよがりの部分も気になる。そして何より気になるのが、社会福祉法人などの理事や職員に「人にやさしくない」タイプが案外多いことだ。この課題は「教育」でかなり改善できると思うが、いかがだろうか。
- 障がい等ある方の“生の声”を聞いてほしい。
- 外灯がない所もあり、暗くなってくると危ないので町内会などで意見を出し合い設置してほしいです。
- 「ひとにやさしいまちづくり」は現代にとってとても重要に感じる。コロナウイルスにより、人対人のコミュニケーションを取りながらまちづくりをする事は問題が多いように感じる。オンラインの活用やオンラインが苦手な人の為に、専門家が多くの情報を発信して行う事が「ひとにやさしいまちづくり」になると思った。積極的に参加してもらえるように専門家の会議を行い県民の意見を多く聞いて活動が必要に感じる。
- ひとにやさしいまちづくりについて、施設等の取り組みや認知度、活動など市町村で違っているように感じます。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●体験から意見、要望を述べさせてもらいます。よく利用する鉄道路線に、知的障がいの方が乗ってきます。とても動的で、乗る人ごとに、扉を閉めないように注意し、車両を往復しながら扉を開けています。コロナということで、社内放送もあり、窓も開けてまわります。乗車した途端に大声で注意されたり、窓を開けるためにのしかかりそうにされるので、乗客もびっくりです。が、どうしていいかわかりません。最近、車掌さんが相手をするようになり、おとなしくなりました。往復はしますが、注意したり、窓を開けたり、扉を開けたりはしなくなりました。公共交通機関の方々、公共施設の方々などは、身体障がい者、高齢者への対応はずいぶん学んでいると思います。ぜひ、知的障がい者への対応も具体的に学んでほしいと思います。上記の車掌さんは具体的にその場でいいこと悪いことを落着いてしっかり伝えていました。だから、上記の障がい者の方も従ったのだと、私は見ていました。これからは、多様性と言われます。誰もが、安心安全に過ごせる まち であってほしいと思います。そのための、交流、学習、研修は、必要だと思います。そして、障がいを持つ側、持たない側の思いや意見の交流や学習が忌憚なくできたらいいなと思います。

●最近ではバリアフリーに対してかなり認知されてきてはいるが、駐車場の設置や利用についてはなかなか改善はされないな、という印象。これは障がい者・健常者に拘らずだが、例えば、障がい者本人が成人または自己の管理に問題ない場合、建物付近で当該の方を降ろし、車は一般駐車場へ停める事も可能な訳で、そうすることによって歩行困難な方やまだ小さい障がい児を連れた方にスペースを譲る事ができる。それぞれが、そこを使う権利は持っているかもしれないが、お互い大変だからこそ、権利ばかり主張するのではなく相手を思いやる行動が必要と思う。車椅子の子を連れた出先でスペースが空くのを待っていると、元気(何かしらの事情があるかも知れないが、その場は問題なく小走りも可能な程なので、元気、と表現)な方が車に乗り込んで去って行くのを見るほど悲しいものはない。

●車椅子利用者用区画については、普段の生活で利用する施設において十分にあり、「車椅子利用者や体の不自由な人が利用する区画」という認知も十分にされていると感じている。普及啓発や看板などによる効果であると考えられる。要望としては、車椅子利用者などを介助する健常者に対しての配慮、公共的施設職員への介助に関する教育をお願いしたい。実際に身近な人から、県内の文化施設で、車椅子に高齢者を乗せて介助していたが、バリアフリーが十分ではなかったために介助の都合で有料エリアから一時退場を文化施設職員に申し出たところ、「ルールだから」という理由で冷たく断られ、嫌な思いをしたし困った、という話を耳にした。有料エリアであること、ルールであること等は仕方ない面もあると思うが、車椅子利用者や体の不自由な人が嫌な気持ちにならないよう、理解し寄り添えるよう、公共的施設職員への教育も必要だと感じた。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●認知症サポーター養成講座のように、職場や地域で簡単に受講できるような、システムで、障がい者支援についても学べるといいなと思います。認知症サポーターは職場で受講しましたが、終わるとオレンジのリングをいただき、自覚を持てます。障がい者という中に、(大人の)発達障害についても、県として取り組んで欲しい。大人の発達障害(疑い)は職場にもいますが、目に見える障害ではないので、対応が難しい。ユニバーサルという点では、それも含めて検討いただきたい。

●ひとにやさしいまちづくりをどのような形で実施されているのか市民にアピールするのも大事だと思います。

●岩手の未来を見据えて、できれば各市町村の中心部あたりに、活気と笑顔あふれるコンパクトシティ化を進めていくまちづくりを基本としていくのはいかがでしょうか。範囲を狭めてサービスを提供できれば、日常生活を送る上で必要な人に必要な安心、安全、便利を確保できるようになるのではと思います。行政としても、細かく分散されがちな医療、介護、育児、障害福祉も一か所にまとめる事で、関わる人の人数であったり、税金の配分も変わってきます。無駄をなくす事で、不足している分野へ回せますからね。

●言葉としては、聞き慣れてはいましたが、内容は分かっていませんでした。これを機会に微力ながら手助けをしていきたい。

●「皆が出し合った税金で、住みよい郷土をつくる」視点が必要と感じる。

●ハード面では、お金や時間が必要なもので、十分に出来ないことは理解できる。ソフト面でカバーできるようにするべき。それには、イベントや広報活動、教育、支援金など様々なアプローチを根気よく続けていくしかないように思う。

●難しく大切なテーマであると感じております。満足できるサービスも大切と思いますが、一人一人が、助け合う心や行動ができるとソフト、ハード面ともに、暮らしやすくなると思います。これは、このテーマで、自分に置き換えて、家庭や会社など、意識して、やさしくなろうと決意できました。ありがとうございます。実際、の声を、SNSやホームページなどで、この駐車場が、とても良かったとか、段差もなく、また、来たいなど、利用者の声を、定期的に公開できると、変化や課題も見えてくるように感じます。ひとにやさしいまちづくりを、普段の生活で意識していこうと思うことができました。貴重な機会をありがとうございました。

●電線・電柱・電信柱を地下に埋める電線の地中化。復興ついでに。神奈川県の佐島の丘の様な。お金はとつてもかかるが、夢と余裕のもてる未来に。

●車椅子用駐車区画はもとより、一般の駐車区画のラインが消えかかっている、直して欲しい。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●全身性疼痛疾患で闘病、在宅生活身体障がい者です。通院以外で外出する機会は少なく、私にとっての「ひとにやさしいまちづくり」は、アンケート質問とはかけ離れていることがほとんどです。外出したくても、手立てがなくてできない人もいる。この現実も、ひとにやさしいまちづくりへの問題へと入れていただきたいです。ヘルパー不足により、移動支援制度は十分に使いません。支給時間はいただいても、全く機能してません。障がい者といっても、さまざまな状況の人がいます。どのような病と障がいがあっても、手立てがあれば外出ができるように社会があること。20年の闘病生活で思う「ひとのやさしいまちづくり」です。これが成り立つまちというのは、社会的弱者すべてに優しさがいきわたっているからです。私も、社会とのつながりで生きていきたいと切に思っております。手立てとは、人の手によるものです。皆さまに甘える、ということではなく、手立てをどうか貸していただきたくお願い申し上げます。

●本当に幸せな事なんでしょう。今回のアンケートは全然身近ではなかったです。「バリアフリー」「ソフト」「バリア」全然分かりませんし、利用した事も無いです。

●私たちはみんな同じく歳をとり、いずれは高齢者になり、更には不慮の事故などで、障がい者になる事もあります。その様に、当事者になった時には、やはり、まわりの環境が「ひとにやさしいまちづくり」に優れている地区に住みたいです。岩手県には、ぜひ、住みやすいまちづくりを進めてほしいです。

●岩手県の場合は自分で車を運転できない方の移動を、できるだけ負担なく、サポートできるかが、「ひとにやさしいまちづくり」の一つだと考えます。ありがとうございました。

●地域文化に合った町づくり。

●少子高齢化が深刻さを増しているなか、全ての人個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し・・・云々は、恐らく都市部生活者をイメージした施策だと思われる。私が住む準限界集落においては当該条例の対象外ではないかと思う。最近、風聞する行政用語としてコンパクトシティという言葉を目にするがこのキャッチコピーの意味は、限界集落・準限界集落に住まう人々は先祖伝来の土地を捨て都市部周辺に住むことを促し、行政コストを削減させたい考え方がバックボーンにあると思う。岩手県が進めなければならない施策は、今、アンケートにある当該条例の評価ではなく、これから岩手の100年後を見据えた少子高齢化の先にある人口減少問題を解決する行政行動が必要です。当該条例を推進したところで人口減少は避けられず、全ての人個人として尊重される岩手にはなりません。このような後ろ向きの消極的行政では将来に禍根を残す結果となることは火を見るよりも明らかです。今行政に求められる喫緊の課題は岩手県に住まう人を一人でも多くすることではないですか？100年後を見据えた行政が今ほど求められている秋は過去にはなかった。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●車がなくても生活できるような暮らしを目指すべき。

●大船渡町復興事業と大船渡市の対応について。大船渡町の新しい商店街の方から復興計画は順調に進んでいますが、①大船渡町の中心部がどこか、②夢商店街・夢横丁（商店の看板は掲示可能）、③モール・パティオ（景観からの看板設置はダメ）、④夏祭りの手踊りは観客もない防波堤の近くで踊りました等の問題提起し、大船渡市との協議の場もありましたが、なかなか解決できないでいる話を聞きました。大船渡市では東京方面の経営コンサルタントに町づくりを依頼して、大船渡町の復興計画が実施されていますが、大船渡市・経営コンサルタント・店主の間のコミュニケーションが取れていないように思います。結論として、「ひとにやさしいまちづくり」には、関係者間で十分コミュニケーションを取ることが大切だと思います。

●内容が漠然としているので、「明日は我が身」の立場に立って進めて欲しいと思います。「仏作って魂入れず」にならないように期待しています。

●良い情報を提供してほしいです。良いサービスを待っています。

●乳児を連れて出かけていると、授乳室がなく、車の中に授乳しに戻ったり、ベビーおむつがえ用の台がなく大変な思いをした事があった。乳児期はトイレに補助便座があるととても助かる。子供を連れていても大丈夫な地域がふえていけばいいなと思う。

●ユニバーサルデザインが示すような、大きい視点からの取り組み。

●スーパーには貸し出す車椅子があるが、よく行く薬局に車椅子がない。不便に感じる。どのドラッグストアにも置いて欲しい。

●震災から10年が経とうとしている。内陸に避難してきた方の学習支援ボランティアを8年ほどしてきた。当事者だけではなく、当事者を取り巻く環境も日々変化してきている。コロナ禍により、外出なども少しずつ控えている中で、特に避難してきた方々のコミュニティが小さくなるのではないかと最近感じていた。被災地も確かに大切ではあるが、故郷を離れ懸命に自立した生活をしている方々の生活再建、心のケアも優しいまちづくりにつながっていくと考える。また、盛岡駅など主要箇所のバス停においては、各バス停に音声案内で案内されているが、それ以外のバス停においては紙面表示となっており、視覚障がいの方などには分かりづらい。また、冬場の時間時間遅延も増えてくると予想されるため、アプリなどを活用しリアルタイムで情報共有できるといいと思う。コロナでバス、電車、タクシーなどの交通機関においては消毒液を設置した方が利用者也安心できる。子どもが常時通える支援センターが少ないように感じられる。コロナ禍により、場によっては遊具の使い方、人数制限、閉館している場合もあるが、直接その場にはわからないことが多く、できれば各支援センターの状況などをホームページにその都度提示してほしい。子育て中の母にとっては、支援センターがとても大切なコミュニティの場となっている。また、向中野にも支援センターを作りたい。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●バスに乗るとき、車椅子では乗れないバスがあるので何とかしてほしいです。

●私は、約1年前、ある会社の従業員から、いじめられ、さらに店長から退職を命じられ退職しました。精神障がい者の私も、差別しないで働かせてほしい。差別され、いじめられました。差別です。

●公共的施設などの設備の利便性などはもちろん必要で大切なことだと思いますが、他人を思いやる気持ちをたくさんの人に常に持ってほしいです。

●町内会の行事への参加の無理強いや、役員や当番の強要がなくても、普段から世代を越えて協力し合えたり、優しい目を向けられてたり出来る気持ちを持ってたら良いのですが…。

●外来語を使い、わざわざ分かりにくくする必要はないと思う。ヘルプマークというものがある事を初めて知りました。困っている人に手助け出来れば良いのですが、手助けを必要としているかどうかの判断が難しいので、ヘルプマークは良いと思います。しかし、マークのデザインが何を伝えたいか分かりにくい。

●「やさしい」という定義は、人それぞれであると思うし、価値観も違うと思うので、「ひとにやさしいまちづくり」というのがすごくフワッとした表現に感じてしまう。皆、立場も環境も違うだろうから、何が良くて、何が悪いではなく、「何のために」がハッキリした展望が見えれば良いんじゃないかと思います。

●交通安全指導隊が市にあって、老人クラブなどを対象として、寸劇による分かりやすい出前講座を2～3人（女性）で啓発活動を行っているが、このような形で「人にやさしいまちづくり」をテーマに学校、保育園などで活動行い、啓発できないか。認知症サポーター講座で何回か小学校へ寸劇でお邪魔したことがある（10年前）。

●ひとにやさしいまちづくりのことかどうかは分かりませんが、私自身、障がい者手帳を持っていますが、車を運転しないので（無料で）もっとタクシーとか利用しやすい制度があればいいです。

●時間ばかり経過し何も変わらなく感じます。仮設住宅を取りこわした公園は、草がのびるばかり。

●ひとにやさしい駐車場利用証はどうやって入手できるのか知りたい。